Panasonic

KX-UT136N

取扱説明書（操作編）

SIP電話機

KX-UT123N

品番 KX-UT136N

保証書別添付　技術基準適合認証品

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- **ご使用前に「安全上のご注意」（7 ～ 11 ページ）を必ずお読みください。**
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

KX-UT123N ／ KX-UT136N：ソフトウェアバージョン　01.081 以降

Document Version 2012-01

はじめに

製品の特長

簡単操作

ナビゲーションキー、各機能ボタン、ソフトボタンなどを使って簡単に機能を使用することができます。
また、メッセージ／リンガーLEDにより、着信や新着のボイスメールがあることを知らせてくれます。

高音質の通話をサポート

標準的なSIPプロトコルに対応し、高音質の通話ができます。

ECOモード

ECOモードを有効にすると、本機の消費電力量を減らすことができます（☞ 42 ページ）。

EHS（電子フックスイッチ）ヘッドセット対応（KX-UT136Nのみ）

EHSヘッドセットを接続して通話ができます（☞ 57 ページ）。

その他

取扱説明書の構成について

本機の取扱説明書は、下記の3冊で構成されています。

お使いになる前に（印刷物）	使用するうえでの安全上のご注意・お願いや、接続の方法を説明しています。
取扱説明書（操作編）（本書）	各部のなまえ、操作の手順、お手入れの方法などを説明しています。
取扱説明書（プログラム編）（PDF）	システム管理者が行う設定や、保守・管理の方法を説明しています。取扱説明書（プログラム編）は、下記サイトでご確認いただけます。 http://panasonic.biz/netsys/sipphone/support/

本書での表記について

- 操作上お守りいただきたいことなど、大切な情報を次のように表しています。

お願い	操作上、お守りいただきたい重要事項や、禁止事項が書かれています。必ずお読みください。
お知らせ	操作の参考となることや補足説明を記載しています。

- 参照していただきたいページを☞マークで表記しています。

商標および登録商標について

- PlantronicsはPlantronics, Incの商標、または登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名・ロゴ・製品名・ソフトウェア名は、各会社の商標または登録商標です。

著作権について

- 日本語変換はオムロンソフトウェア（株）のモバイルWnnを使用しています。
  "Mobile Wnn" © OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1999-2011 All Rights Reserved.
- 本機に内蔵される着信音の著作権はすべてCopyrights Vision Inc.に帰属します。
  © 2009 Copyrights Vision Inc.

もくじ

安全上のご注意 必ずお守りください 7

ご使用にあたってのお願いとお知らせ 12

使用上のお願い 12

お客様の大切な情報を保護するために 13

商品を確認する 14

付属品／添付品について 14

別売品について 15

各部のなまえとはたらき 16

画面について 21

ステータスアイコン 21

ソフトボタンとソフトボタンアイコンについて 22

基本的な操作のしかた 24

本機の内線番号を確認する 24

受話器を取る／戻す 24

音量を調節する 25

基本操作について 26

電話をする 26

電話をかける 26

電話帳から電話をかける 26

通話履歴から電話をかける 27

再ダイヤルをする 27

ワンタッチが設定されたフレキシブルボタンを使って電話をかける（KX-UT136Nのみ） 27

電話を受ける 28

電話を受ける 28

着信を拒否する 28

保留する 30

通話中にかかってきた電話に応答する（話中時着信） 30

交互に2人の相手と通話する 31

転送する 31

ワンタッチで転送する（KX-UT136Nのみ） 31

通話中に自分の声を相手に聞こえないようにする（ミュート） 32

３者会議通話をする 33

３者会議通話をする 33

3者会議通話から2者通話に戻す 33

3者会議通話を終了する 33

ボイスメールを確認する 34

新着のボイスメールを確認する 34
不在着信を確認する 34
不在転送／不在設定を設定する 35
フレキシブルボタンを使用する（KX-UT136Nのみ） 35
より便利に使う 37
電話帳を使う 37
電話帳に連絡先を追加する 37
着信履歴または不在着信履歴から連絡先を追加する 37
連絡先を編集する 37
連絡先を検索する 38
連絡先を削除する 38
電話帳をエクスポート／インポートする 38
本機を設定する 39
設定のしかた 39
設定できる項目 40
設定項目について 42
文字入力のしかた 49
Webプログラミング 52
本機を接続／設置する 53
スタンドを取り付ける／取り外す 53
本機を接続する 56
壁に設置する 60
受話器を固定する 64
ヘッドセットを使用する 66
本機を設定する 66
本機のメンテナンス 67
初期化する 67
再起動する 67
お手入れ 67
必要なとき 68
仕様 68
困ったとき 69
よくある症状と処置 69
こんなメッセージが表示されたら 71
改訂履歴 73
ソフトウェアバージョン　01.025 73
ソフトウェアバージョン　01.081 74
オープンソースソフトウェア 75
保証とアフターサービス（よくお読みください） 79

索引.....81

安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です。）

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

⚠警告

分解・修理・改造は、しない

火災・感電の原因になります。

分解禁止

●修理は販売店へご相談ください。

煙・異臭・異音が出たり、落下・破損したときは、すぐに ACアダプター*1 を抜く*2

そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。

電源プラグを抜く

●使用を中止し、販売店へご相談ください。

*1 AC アダプター給電の場合のみ

*2 PoE 給電の場合は、LAN ケーブルを本機から抜いてください。

⚠警告

ACアダプター[*1]を破損するようなことはしない

（傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねる　など）

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

禁止

●修理は販売店へご相談ください。

電源コンセントや配線器具の定格を超える使い方やAC 100 V以外での使用はしない

たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

禁止

機器内部に水をかけたり、ぬらしたりしない

火災・感電・けがの原因になります。

水ぬれ禁止

●ぬれた場合は、すぐにACアダプター[*1]を抜いて[*2]販売店へご相談ください。

機器内部に金属物を入れない

火災・感電の原因になります。

禁止

●金属物が入った場合は、すぐにACアダプター[*1]を抜いて[*2]販売店へご相談ください。

ACアダプター[*1]に水をかけたり、ぬらしたりしない

火災・感電・けがの原因になります。

水ぬれ禁止

●ぬれた場合は、すぐにACアダプター[*1]を抜いて[*2]販売店へご相談ください。

受話器フックは、乳幼児の手の届くところに置かない

誤って、飲み込むおそれがあります。

禁止

●万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

*1　ACアダプター給電の場合のみ
*2　PoE給電の場合は、LANケーブルを本機から抜いてください。

⚠警告

ACアダプター*1は根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全なまま使用すると、感電や発熱による火災の原因になります。

●傷んだACアダプターやゆるんだコンセントは、使用しないでください。

ACアダプター*1のほこりなどは定期的にとる

プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

●ACアダプターを抜き、乾いた布でふいてください。

ぬれた手で、ACアダプター*1の抜き差しはしない

感電の原因になります。

ぬれ手禁止

雷が鳴ったら本機やACアダプター*1に触れない

感電の原因になります。

接触禁止

ACアダプター*1に長時間直接触れない

ACアダプターの温度の高い部分に長時間、直接触れていると、低温やけどの原因になります。

禁止

付属品または専用品以外を使用しない

指定以外の機器を使用すると、火災・感電の原因になります。

禁止

機器の周囲10 cm以内には物を置かない

内部に熱がこもり、発熱・火災の原因になります。

禁止

壁掛けにするときは、壁の強度が本機の重量（約1,090 g）に耐えうることを確認する

落下により破損・けがの原因になります。

*1　ACアダプター給電の場合のみ

⚠警告

壁掛けで長期間使用しないときは、本機を壁から取り外す

落下により破損・けがの原因になります。

ねじで壁に取り付ける際は、壁内のメタルラス、ワイヤラスや金属板などの金属に触れないようにする

漏電・感電・火災などの原因になります。

⚠注意

湿気や湯気・ほこりの多い場所では、使用しない

禁止

火災・感電の原因になることがあります。

水平でない場所や振動の激しい場所では、使用しない

禁止

落下により破損・けがの原因になることがあります。

電源コードを抜くときは必ずACアダプター[*1]を持って抜く[*2]

電源プラグを抜く

コードを引っ張ると、コードが破損し火災・感電・ショートの原因になることがあります。

長時間使用しないときは、必ずACアダプター[*1]をコンセントから抜く[*2]

電源プラグを抜く

漏電により、火災の原因になることがあります。

水や薬品のかかる場所に置かない

水ぬれ禁止

火災・感電の原因になることがあります。

直射日光が当たる場所や冷暖房機の近くに置かない

禁止

温度が40 ℃以上、0 ℃以下の環境で使用すると誤動作・変形・故障の原因になることがあります。

壁掛けにするときは、指定の方法で取り付ける

落下により、破損やけがの原因になることがあります。

●石こうボード、ALC（軽量気泡コンクリート）、コンクリートブロック、厚さ 18 mm 以下のベニヤ板など、強度の弱い壁は避け、指定の方法で取り付けてください。

壁掛けにするときは、ACアダプター[*1]・LANケーブルを壁にしっかりと固定する

ケーブルが固定されていない場合、落下により破損・けがの原因になることがあります。

*1 ACアダプター給電の場合のみ

*2 PoE給電の場合は、LANケーブルを本機から抜いてください。

ご使用にあたってのお願いとお知らせ

使用上のお願い

本機をご使用になる際は、以下のことに注意してください。

1. **機器に、強い衝撃や振動を与えないでください**
   落としたりぶつけたりして強い衝撃が加わると、故障や破損の原因になります。

2. **本機に無理な力がかかるような場所に置かないでください**
   液晶表示部、内部基板などの破損／故障の原因になります。本機が重たいものの下にならないようにご注意ください。

3. **冷凍倉庫など特に温度の下がる場所に置かないでください**
   故障や動作不良の原因になります。

4. **ラジオ、テレビ、OA機器、電子レンジ、エアコンなどから2 m以上離してお使いください**
   機器からのノイズにより雑音の発生など悪影響を受ける・与える原因になります。

5. **直射日光、暖房設備、ボイラーなどの、特に温度の上がる場所に置かないでください**
   機器表面や部分が変形・劣化するほか、故障の原因になります。

6. **硫化水素、リン、アンモニア、硫黄、炭素、酸、塵埃、有毒ガス等の発生する場所に置かないでください**
   故障や機器の寿命が短くなる原因になります。

7. **殺虫剤などの揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品などに長時間付着させたままにしないでください**
   変質したり、塗料がはげる原因になります。

8. **キャッシュカード、テレホンカードなどの磁気カード類をスピーカーやマイクに近づけないでください**
   カード類が使えなくなることがあります。

9. **電磁波発生源や磁気を帯びたもの（高周波ミシン・電気溶接機・磁石など）に近づけないでください**
   雑音の発生や故障の原因になります。

10. **湿気の多い場所でのご使用や、雨などがかかることは避けてください。**
    本機およびACアダプターは防水仕様にはなっておりません。

11. **電源コンセントに近い場所に本機を設置してください。また、電源プラグの抜き差しの妨げにならないよう、電源コンセントの近くには物を置かないでください。**

12. **工事をされる方は、正しく安全に設置してください。正しく設置されなかった場合などの製品の故障および事故について、当社はその責任を負えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。**

その他

- この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
  取扱説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

お客様の大切な情報を保護するために

お客様固有の情報の流出による、不測の損害を回避するため、下記事項をお守りください。
本機の不正使用による損害に対し、弊社は責任を負いかねます。

情報の損失を防ぐために

- 登録した電話帳の内容は、メモなどに控えるようにしてください。
- 修理のときなどに、本機に記憶または保存されたデータなどが変化／消失するおそれがあります。大切なデータを思わぬトラブルから守るために、「お客様の大切な情報を保護するために」の内容に注意してください（☞ 13 ページ）。

情報の流出を防ぐために

- 不特定多数の人が出入りするような場所に、本機を放置しないようにしてください。
- 重要な情報を保存する場合は、本機を適切な場所で管理するようにしてください。
- 重要な個人情報は、本機に登録しないようにしてください。
- 本機は、お客様固有のデータ（電話帳や通話履歴など）を登録または保持可能な製品です。データ流出等の不測の損害等を回避するために、下記のような場合は、必要な利用者情報はメモなどに控え、本機をお買い上げ時の状態に初期化してください（☞ 67 ページ）。
  - 本機を譲渡・廃棄する場合
  - 本機を貸し出す場合
  - 本機を修理に出す場合
- 本機を修理に出す場合は、お買い上げの販売店へ依頼するようにしてください。

ネットワーク上での情報の漏えいを防ぐために

- 本機は、適切に管理されたLAN上で使用し、不正アクセスが行われないようにしてください。
- 本機と接続するパソコンのセキュリティは、常に最新の状態にしてください。

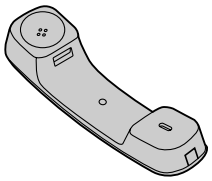
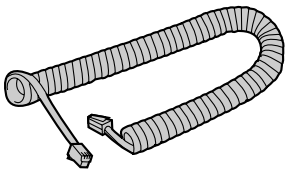
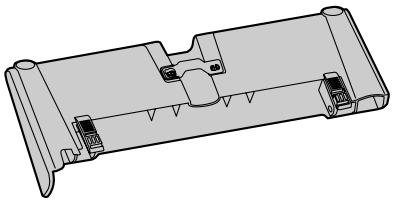
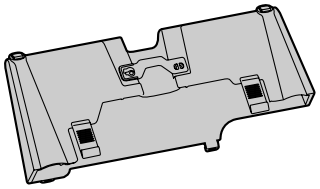
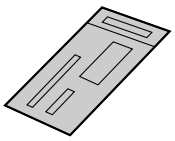
セキュリティの設定情報に関するお願い

- お客さまが設定されたパスワードなどセキュリティに関する設定は、弊社のサービスセンターなどで解除することはできません。パスワードなどの設定内容は忘れないようにしてください。
- パスワードを忘れた場合は、本機を初期化して（☞ 67 ページ）再度設定しなおしてください。
- パスワードはできるだけ推測されにくいものを設定し、定期的に変更してください。
- SSL認証を行う場合は、NTPサーバーを必ず設定してください。NTPサーバーを設定せずにSSL認証を行った場合は、SSL証明書の有効期限の確認を行わず、無条件にSSL認証が有効となります。

商品を確認する

付属品／添付品について

不備な点がございましたら、お買い上げの販売店へお申し付けください。

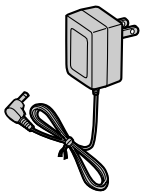
受話器 （数量：1）	受話器コード （数量：1）	お使いになる前に （数量：1）
		
スタンド （数量：1）		保証書 （数量：1）
KX-UT136N 	KX-UT123N 	

お知らせ

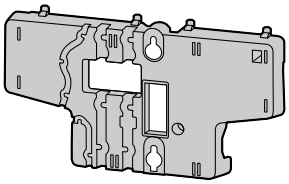
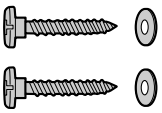
- 本書に記載しているイラストは実際の製品と異なる場合があります。

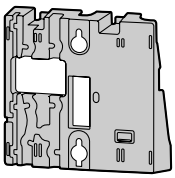
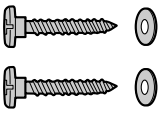
別売品について

別売品として以下の製品を用意しています。

ACアダプター[*1]（KX-A239N [PQLV206JP]） （数量：1）


[*1] ACアダプターを注文する際は、品番は「KX-A239N」でご注文ください。

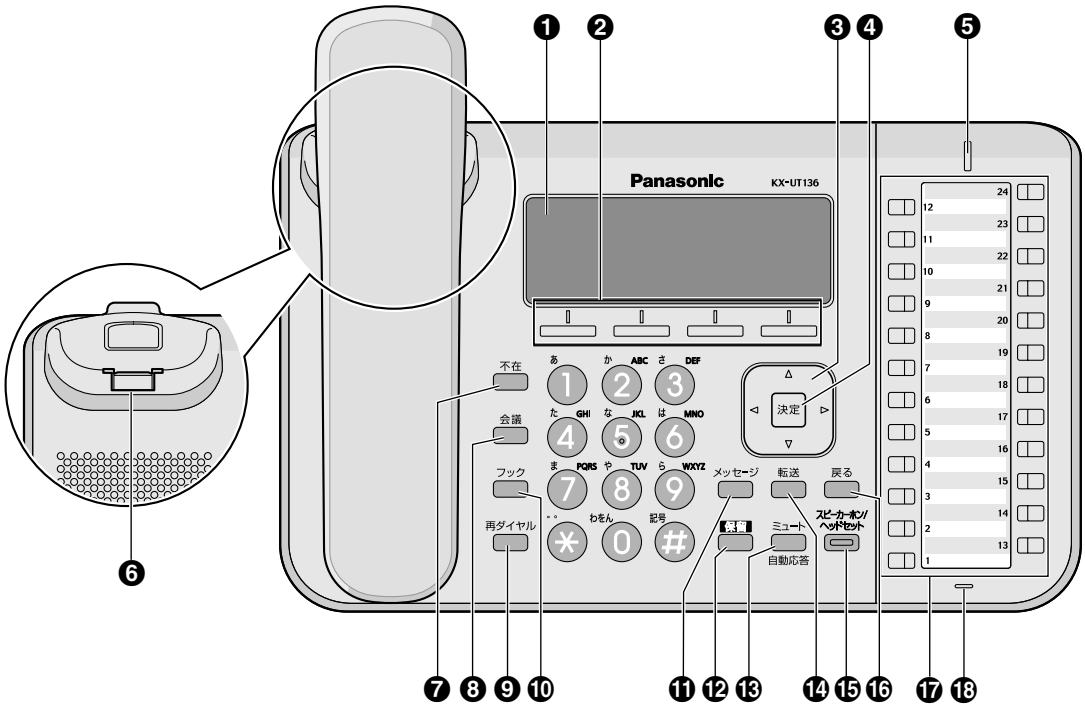
KX-UT136N用壁掛けキット（KX-A433N）		
壁掛けアダプター （数量：1）	壁掛けアダプター用ねじ （数量：1）	壁取り付け用ねじ ・ ワッシャー （数量：各2）
		

KX-UT123N用壁掛けキット（KX-A432N）		
壁掛けアダプター （数量：1）	壁掛けアダプター用ねじ （数量：1）	壁取り付け用ねじ ・ ワッシャー （数量：各2）
		

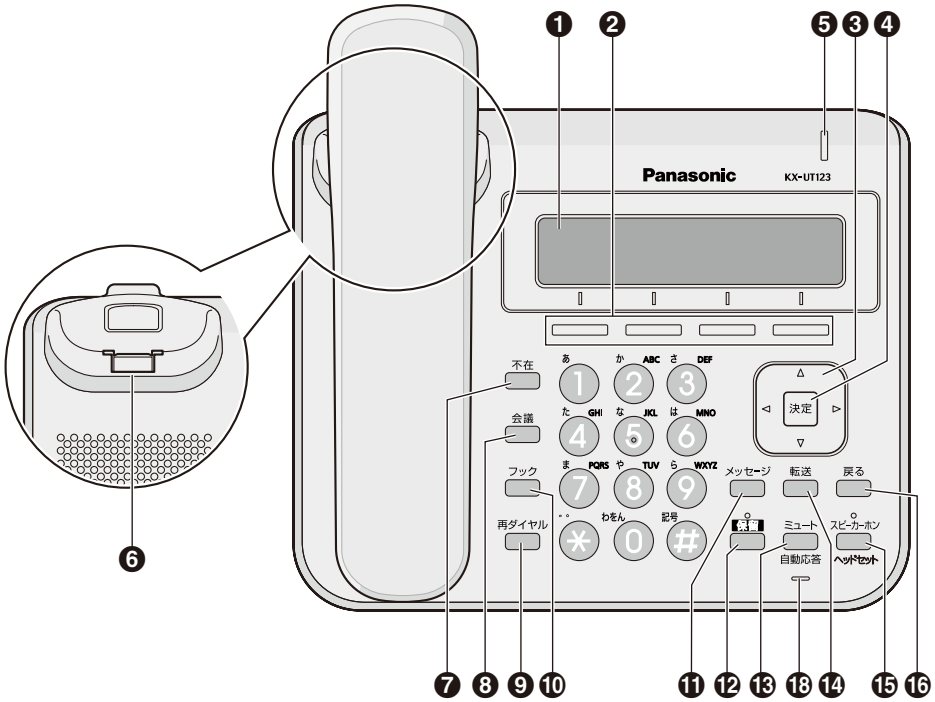
各部のなまえとはたらき

前面

KX-UT136N



KX-UT123N



❶ 液晶表示部

KX-UT136Nは6行表示、KX-UT123Nは3行表示です。

❷ **ソフトボタン**
液晶表示部に表示されている項目を選択します。

❸ **ナビゲーションキー**
音量を調節したり、項目を選択するときに使用します。

❹ **決定ボタン**
項目を決定したり、設定内容を保存するときに使用します。

❺ **メッセージ／リンガーLED**
以下のように、LEDの色で本機の状態を示します。

色（状態）	本機の状態
赤（点灯）	新着ボイスメールあり
緑（点滅）	着信中／保留再呼中

❻ **受話器フック**
壁に設置して使用するときに、受話器が落ちないように固定します（☞ 64 ページ）。

❼ **不在ボタン**
不在転送や着信拒否を設定します。

❽ **会議ボタン**
通話中に多者会議を行うときに使用します。

❾ **再ダイヤルボタン**
直前に電話をかけた相手に再ダイヤルするときに使用します。

❿ **フックボタン**
受話器を下ろさずに現在の通話を終了し、次の通話を開始するときに使用します。

⓫ **メッセージボタン**
ボイスメールボックスに接続するときに使用します。

⓬ **保留ボタン**
通話を保留するときに使用します。使用中は保留ランプが赤く点滅します（KX-UT123Nのみ）。

⓭ **ミュート／自動応答ボタン**
通話中に自分の声を相手に聞こえないようにしたり（ミュート）、受話器を使わずに自動的に着信する（自動応答）ように設定するときに使用します。

⓮ **転送ボタン**
通話を転送するときに使用します。

⓯ **スピーカーホン／ヘッドセットボタン**
受話器を取らずに電話をかけたり、受けたりするときに使用します。また、ヘッドセットを使って通話をするときにも使用します。使用中はランプが赤く点灯します。ミュート中はランプが赤く点滅します。

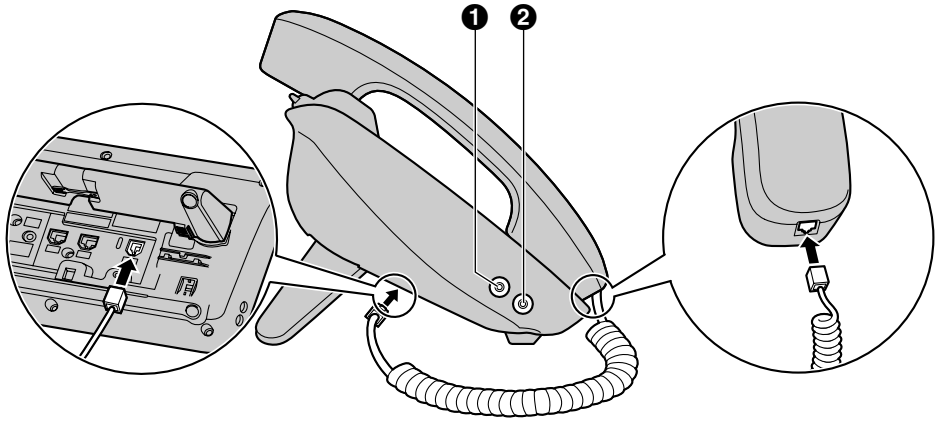
⓰ **戻るボタン**
選択した項目を取り消すときに使用します。

⓱ **フレキシブルボタン／フレキシブルボタンLED（KX-UT136Nのみ）**
電話をかけたり受けたりするときや、ボタンに設定した機能を実行するときに使用します（☞ 35 ページ）。フレキシブルボタンLEDは各フレキシブルボタンの状態を表示します。

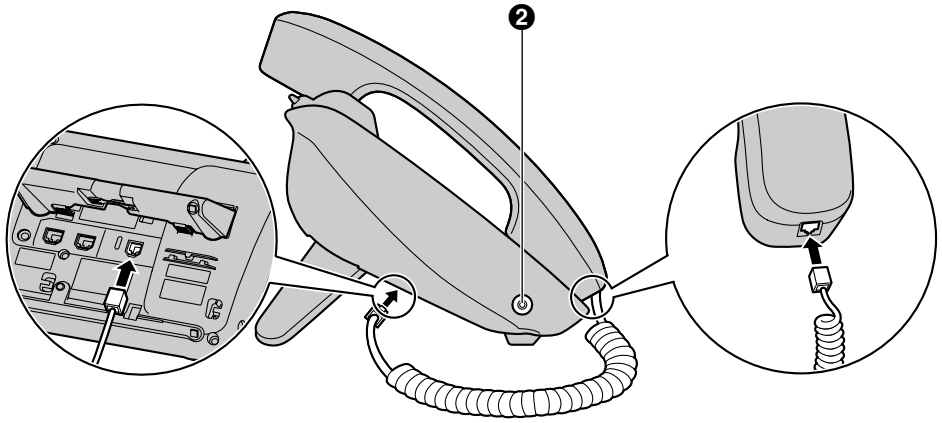
⑱ **マイク**
受話器を取らずに通話するときに使います。

左側面

KX-UT136N



KX-UT123N

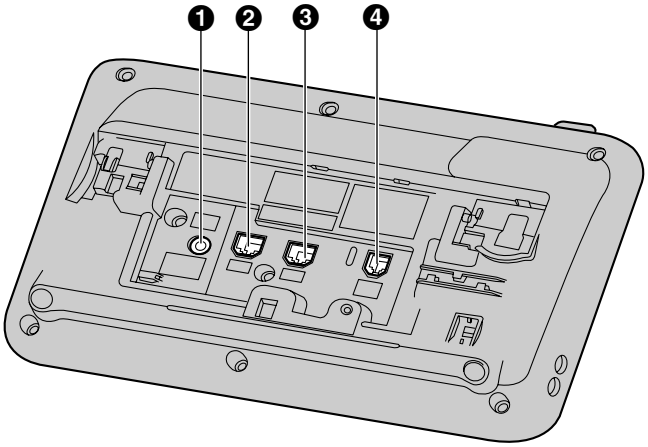


❶ EHSジャック（KX-UT136Nのみ）
EHS（電子フックスイッチ）ヘッドセットを接続します。

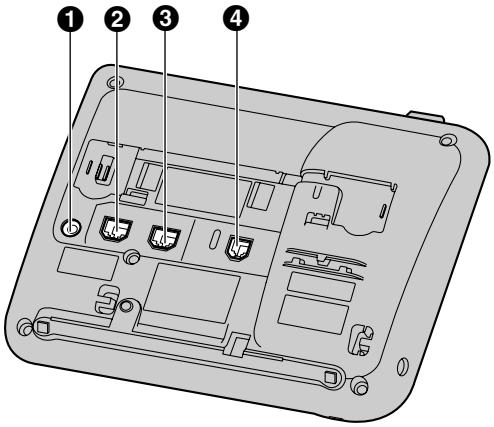
❷ ヘッドセットジャック

背面

KX-UT136N



KX-UT123N



❶ DCジャック

❷ LANポート

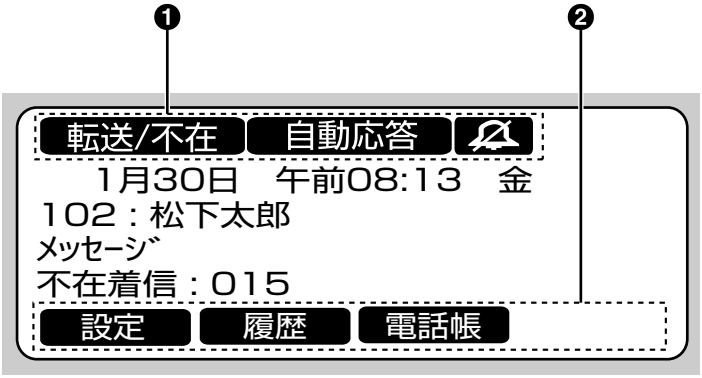
❸ PCポート

❹ 受話器用モジュラージャック

画面について

この章では、画面に表示されるボタンやアイコンについて説明します。

KX-UT136N



KX-UT123N

❶ ステータスアイコン

さまざまな機能の状態を表示します（☞ 21 ページ）。

❷ ソフトボタンアイコン

対応するソフトボタンを押したときに実行される機能を表示します。表示されるアイコンは、本機の状態によって異なります。（例：通話中に表示されるアイコンは、電話帳登録時に表示されるアイコンとは異なります。）

❸ スクロールインジケーター

表示される【▲】、【▼】、【◄】、【►】に対応するナビゲーションキーを使って、前後の項目を表示します。

お知らせ

- KX-UT136Nでは、画面によってはスクロールインジケーターが表示される場合があります。

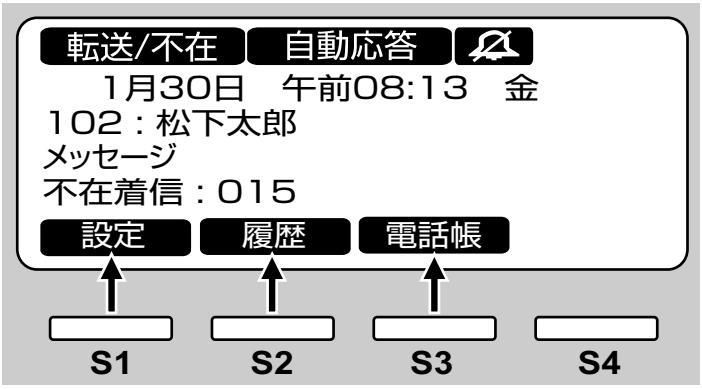
ステータスアイコン

アイコン	説明
転送/不在	不在転送または不在設定が設定されているときに表示されます（☞ 35 ページ）。
自動応答	自動応答が設定されているときに表示されます（☞ 28 ページ）。

アイコン	説明
	着信音がオフになっているときに表示されます（☞ 25 ページ）。
ECO	ECOモードが設定されているときに表示されます（☞ 42 ページ）。
	SIPサーバーへの登録が外れたときに表示されます。このアイコンが表示された場合は、システム管理者にお問い合わせください。
	ボイスメールを確認するときに、新着のボイスメールがある回線に表示されます（☞ 34 ページ）。

ソフトボタンとソフトボタンアイコンについて

ソフトボタン（S1～S4）を押すと、各ボタンの上に表示される機能を実行します。



本書では、ソフトボタンはアイコンで表記しています。
例えば、「設定 を押す」、「履歴 を押す」、「電話帳 を押す」はそれぞれ、**S1**、**S2**、**S3**を押すことを示しています。

アイコン	説明
設定	起動中： 起動時に設定できるスタートアップメニューを表示します（☞ 66 ページ）。 待機中： 設定メニューを表示します（☞ 39 ページ）。
履歴	通話履歴を表示します（☞ 27 ページ）。
電話帳	電話帳を表示します（☞ 37 ページ）。
ｸﾘｱ	カーソル上にある数字や文字を削除します（☞ 26 ページ）。
検索	電話帳にある連絡先を検索します（☞ 26 ページ）。
ﾒﾆｭｰ	通話履歴や電話帳にある連絡先を編集します（☞ 27 ページ、38 ページ）。

アイコン	説明
実行	転送操作時： 転送を実行します（☞ 31 ページ）。 ファームウェアアップデート時： ファームウェアアップデートを実行します（☞ 47 ページ）。
決定	表示される内容を保存または確定します。 **お知らせ** • 本機の**【決定】**ボタンを押しても、このソフトボタンと同じ操作をすることができます。
回線	複数の回線が使用可能な場合に、電話をかけるときに使用する回線を選択します（KX-UT123Nのみ）（☞ 26 ページ）。
応答	電話に応答します（☞ 24 ページ）。
閉じる	着信画面を閉じ、プリセットダイヤル画面に戻ります（☞ 26 ページ）。
拒否	着信を拒否します（☞ 28 ページ）。
ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ	ブラインド転送を行います（☞ 31 ページ）。
登録	着信拒否番号リストや電話帳に項目を登録します（☞ 29 ページ、37 ページ）。
消去	表示される内容を削除します（☞ 29 ページ、38 ページ）。
保存	表示される内容を保存します（☞ 29 ページ、37 ページ）。
呼出	電話をかけます（☞ 26 ページ）。
編集	表示される内容を編集します（☞ 27 ページ、29 ページ、37 ページ）。
優先	1件の連絡先に対して複数の電話番号が登録されている場合、電話帳からの発信時に優先される番号を設定します。（☞ 37 ページ）。
番号	電話帳検索時に、電話番号を表示します（☞ 26 ページ）。
更新	ファームウェアをアップデートします（☞ 47 ページ）。
変換	文字入力時に、文字を変換します（☞ 49 ページ）。
全角 ／ 半角	文字入力時に、文字の全角と半角を切り替えます（☞ 50 ページ）。
かな漢 ／ ｶﾅ ／ ABC ／ 123	文字入力時に、入力モードを切り替えます（☞ 50 ページ）。

基本的な操作のしかた

この章では、本機の基本的な使用方法について説明します。

本機の内線番号を確認する

待機中（通話中または発着信中以外）に、本機の内線番号と登録されたユーザー名を確認できます。

受話器を取る／戻す

本機では、複数の方法で電話をかけたり切ったりすることができます。

- 受話器を使う
- **【スピーカーホン】**を使う
- ソフトボタンを使う
- DN（内線）が設定されたフレキシブルボタンを使う（KX-UT136Nのみ）

受話器を取る

本書で「受話器を取る」という表記をしている場合、以下のいずれかの操作を行えます。

- 受話器を受話器フックから持ち上げる
- 受話器が受話器フックに置かれているときに **【スピーカーホン】**を押す
  この操作を行うと、ハンズフリーで通話ができます。
- DN（内線）が設定されたフレキシブルボタンを押す（KX-UT136Nのみ）

お知らせ

- 応答 などのソフトボタンを押しても、**【スピーカーホン】**と同じ操作を行うことができます。
- DN（内線）が設定されたフレキシブルボタンの詳細は ☞ 35 ページ

受話器を戻す

本書で「受話器を戻す」という表記をしている場合、以下のいずれかの操作を行えます。

- 受話器を受話器フックに置く
- ハンズフリーでの通話中に**【スピーカーホン】**を押す

受話器を取らずに通話する（ハンズフリー）

ハンズフリー機能を使用して、受話器を使わずに通話ができます。通話中に何かを書きとめたりする場合に便利です。

ハンズフリー機能を使用する

以下のいずれかの操作を行うと、ハンズフリーで通話ができます。

- 待機中に**【スピーカーホン】**を押す
- 受話器での通話中に**【スピーカーホン】**を押し、受話器を戻す
- 電話に応答するときに、 応答 を押す
- DN（内線）が設定された待機中（消灯）のフレキシブルボタンを押す（KX-UT136Nのみ）
- DN（内線）が設定された着信中（緑点滅［速］）のフレキシブルボタンを押す（KX-UT136Nのみ）
- DN（内線）が設定された保留中（緑点滅［遅］）のフレキシブルボタンを押す（KX-UT136Nのみ）

ハンズフリー機能を終了する

受話器を取ることで、ハンズフリー機能を終了することができます。

お知らせ

- DN（内線）が設定されたフレキシブルボタンの詳細は ☞ 35 ページ

相手の声を周りの人に聞かせる（オフフックモニター）

以下の操作を行うと、受話器での通話中に、通話相手の声をスピーカーから自分の周りにいる人に聞かせることができます。

- **【スピーカーホン】**を押し、受話器を戻さずに通話する
- オフフックモニターを終了するには、**【スピーカーホン】**を再度押す

お知らせ

- オフフックモニター中に受話器を戻すと、ハンズフリー通話になります。
- 会議通話中に、**【スピーカーホン】**を押すだけで、ハンズフリー通話になります。
  その場合、受話器は使えなくなります。

音量を調節する

ナビゲーションキーの【▲】と【▼】を使って、着信、受話器、ヘッドセット、スピーカーの音量を調節することができます。

着信音量を調節する

着信中、【▲】または【▼】を押す

お知らせ

- 設定メニューからも着信音量を調節することができます。（☞ 42 ページ）
- 着信音量を一番下まで下げると、**「オフ」**が表示されます。 また、待機中の画面には、 が表示されます。

受話器／ヘッドセット／スピーカーの音量を調節する

受話器、ヘッドセット、またはハンズフリーでの通話中に、【▲】または【▼】を押す

基本操作について

電話をする

この章では、電話のかけ方について説明します。

電話をかける

1 待機中に、受話器を取る

2 電話番号を入力する（最大32桁）

3 **【決定】**を押す
または、電話がかかるまで数秒待つ

4 通話が終わったら、受話器を戻す

お知らせ

- KX-UT123Nでは、使用可能な回線が複数ある場合は、受話器を取る前に 回線 を押して使用する回線を選択することができます。

電話番号を確認してから電話をかける（プリセットダイヤル）

待機中、受話器を置いたまま電話をかけることができます。

- 入力した番号を削除するには、 クリア を押してください。
- 番号をすべて削除するには、 クリア を長押ししてください。
- 電話をかけるには、受話器を取るか**【決定】**を押してください。

お知らせ

- KX-UT136Nでは、DN（内線）が設定された待機中（消灯）のフレキシブルボタン（☞ 35 ページ）を押して電話をかけることもできます。
- KX-UT123Nでは、受話器を取る代わりに 呼出 を押して電話をかけることができます。使用可能な回線が複数ある場合は、使用する回線を選択し、**【決定】**を押してください。
- 番号を入力中に着信があった場合、画面は着信画面に変わります。
- KX-UT136Nでは、 閉じる を押すことによって着信画面を閉じ、プリセットダイヤルの番号入力を続けることができます。

電話帳から電話をかける

連絡先をスクロールして選択する

1 電話帳 を押す

2 **【▲】**または**【▼】**を押し、連絡先を選択する

3 受話器を取る

4 通話が終わったら、受話器を戻す

お知らせ

- KX-UT136Nでは、手順3でDN（内線）が設定された待機中（消灯）のフレキシブルボタン（☞ 35 ページ）を押して電話をかけることもできます
- KX-UT123Nでは、受話器を取る代わりに 呼出 を押して電話をかけることができます。使用可能な回線が複数ある場合は、使用する回線を選択し、**【決定】**を押してください。
- 1件の連絡先に対して複数の電話番号が登録されている場合、手順2で 番号 を押して、かけたい電話番号を選択してください。

名前で検索する

1 電話帳 を押す

2 検索 を押す

3 検索したい名前（フリガナ）を入力する（最大12文字）

4 **【決定】**を押す
検索条件に合った連絡先が表示されます。

5 受話器を取る

6 通話が終わったら、受話器を戻す

お知らせ

- KX-UT123Nでは、受話器を取る代わりに 呼出 を押して電話をかけることができます。使用可能な回線が複数ある場合は、使用する回線を選択し、**【決定】**を押してください。
- 文字入力のしかたは☞ 49 ページ

- 1件の連絡先に対して複数の電話番号が登録されている場合、手順4で 番号 を押して、かけたい電話番号を選択してください。
- 1分間ボタン操作が無い場合は、待機画面に戻ります。

通話履歴から電話をかける

発信履歴と着信履歴は、それぞれ新しい順に30件ずつ記憶されています。着信履歴のうち不在着信は不在着信履歴にも表示されます。
通話履歴にある電話番号に電話をかけることができます。

1 履歴 を押す

2 **【▲】**または**【▼】**を押して通話履歴の種類を選択し、**【決定】**を押す

3 **【▲】**または**【▼】**を押して、電話をかけたい連絡先を選択する

4 受話器を取る

5 通話が終わったら、受話器を戻す

お知らせ

- KX-UT136Nでは、手順4でDN（内線）が設定された待機中（消灯）のフレキシブルボタン（☞ 35 ページ）を押して電話をかけることもできます。
- KX-UT123Nでは、受話器を取る代わりに 呼出 を押して電話をかけることができます。使用可能な回線が複数ある場合は、使用する回線を選択し、**【決定】**を押してください。
- 通話履歴にある連絡先を電話帳に追加することができます（☞ 37 ページ）。

着信履歴または不在着信履歴の電話番号を変更したあとで電話をかける

着信履歴または不在着信履歴にある電話番号を使って電話をかけるときに、電話番号を編集してかけることができます。

1 履歴 を押す

2 **【▲】**または**【▼】**を押して、**「着信履歴」**または**「不在着信」**を選択し、**【決定】**を押す

3 **【▲】**または**【▼】**を押して、電話をかけたい連絡先を選択する

4 機種に合わせて、以下のいずれかの操作を行う
KX-UT123N
- メニュー を押して**「編集」**を選択し、**【決定】**を押す。

KX-UT136N
- 編集 を押す。

5 電話番号を修正し、受話器を取る
または、 呼出 を押す

6 通話が終わったら、受話器を戻す

再ダイヤルをする

最後にかけた電話番号に、再度電話をかけることができます。

1 **【再ダイヤル】**を押す

2 通話が終わったら、受話器を戻す

お知らせ

- KX-UT136Nでは、**【再ダイヤル】**を押す前に、DN（内線）が設定された待機中（消灯）のフレキシブルボタンを押して再ダイヤルに使用する回線を選択してください。
- **【再ダイヤル】**を押した場合に発信履歴が表示されるように設定されている場合があります。詳細は、システム管理者にお問い合わせください。

ワンタッチが設定されたフレキシブルボタンを使って電話をかける（KX-UT136Nのみ）

フレキシブルボタンにワンタッチの設定をしている場合は、ワンタッチが設定されたフレキシブルボタンを使って簡単に電話をかけることができます。

1. 受話器を取り、ワンタッチが設定されたフレキシブルボタンを押す
2. 通話が終わったら、受話器を戻す

お知らせ

- BLF（内線状態表示）が設定されたフレキシブルボタンを使って他の内線に電話をかけることもできます。詳細は、システム管理者にお問い合わせください。
- ワンタッチやBLF（内線状態表示）などのフレキシブルボタンの詳細は☞ 35 ページ

電話を受ける

この章では、電話の受け方について説明します。

電話を受ける

1. 受話器を取る
2. 通話が終わったら、受話器を戻す

自動応答を設定する

着信があった場合に、自動的に応答することができます。呼び出し音が設定した回数鳴った後、自動的に通話が開始されます。

- 自動応答を設定する：
  待機中に**【自動応答】**を押して、**「自動応答 設定」**を表示する
- 自動応答を解除する：
  待機中に**【自動応答】**を押して、**「自動応答 解除」**を表示する

お知らせ

- 自動応答が設定されているときは、待機中に 自動応答 が表示されます。

着信を拒否する

電話がかかってきても着信をしないようにしたり、ある特定の番号からの着信を受けないように設定できます。

着信中に電話を拒否する

1. 着信中に 拒否 を押す

非通知設定の着信を拒否する

電話番号を非通知設定にしている番号からの着信の場合、着信を拒否するよう設定できます。
非通知設定の着信を拒否する場合は、Webプログラミング（☞ 52 ページ）で非通知着信拒否設定を有効にする必要があります。詳細は、システム管理者にお問い合わせください。

お知らせ

- 着信を拒否した電話番号は、着信履歴または不在着信履歴には記憶されません。

- 回線によっては、着信を拒否できない場合があります。

特定の番号の着信を拒否する

特定の電話番号からの着信を拒否することができます。

お知らせ

- 着信を拒否した電話番号は、着信履歴または不在着信履歴には記憶されません。

電話番号を登録する

着信を拒否したい電話番号を、着信拒否番号リストに最大30件まで登録することができます。

1 待機中に 設定 を押す

2 **【▲】**または**【▼】**を押して**「着信拒否」**を選択し、**【決定】**を押す

3 登録 を押す

4 電話番号を入力し（最大32桁）、**【決定】**を押す

お知らせ

- 続けて他の電話番号を登録する場合は、手順3からの操作を繰り返します。

着信履歴または不在着信履歴にある番号を登録する

着信履歴または不在着信履歴から電話番号を登録することができます。

1. 待機中に 履歴 を押す
2. **【▲】**または**【▼】**を押して、**「着信履歴」**または**「不在着信」**を選択し、**【決定】**を押す
3. **【▲】**または**【▼】**を押して着信を拒否したい電話番号を選択する
4. 保存 を押す
5. **【▲】**または**【▼】**を押して**「着信拒否」**を選択し、**【決定】**を押す
6. **【▲】**または**【▼】**を押して**「はい」**を選択し、**【決定】**を押す

お知らせ

- 1分間ボタン操作が無い場合は、待機画面に戻ります。

登録した電話番号を編集する

1 待機中に 設定 を押す

2 **【▲】**または**【▼】**を押して**「着信拒否」**を選択し、**【決定】**を押す

3 **【▲】**または**【▼】**を押して編集したい電話番号を選択し、 編集 を押す

4 電話番号を編集し、**【決定】**を押す

お知らせ

- 1分間ボタン操作が無い場合は、待機画面に戻ります。

登録した電話番号を削除する

1 待機中に 設定 を押す

2 **【▲】**または**【▼】**を押して**「着信拒否」**を選択し、**【決定】**を押す

3 **【▲】**または**【▼】**を押して削除したい電話番号を選択し、 消去 を押す

4 **【▲】**または**【▼】**を押して**「はい」**を選択し、**【決定】**を押す

お知らせ

- 1分間ボタン操作が無い場合は、待機画面に戻ります。

保留する

通話中の電話を保留することができます。

保留する

1. **【保留】**を押し、受話器を戻す

お知らせ

- KX-UT136Nでは、自動保留が設定されている場合、DN（内線）が設定された着信中（緑点滅［速］）のフレキシブルボタンを押して、現在の通話を自動的に保留することができます。詳細は、システム管理者にお問い合わせください。

保留中の電話に応答する

1. 受話器を取る

2. 機種に合わせて、以下のいずれかの操作を行う

KX-UT123N

- **【保留】**を押す

KX-UT136N

- DN（内線）が設定された保留中（緑点滅［遅］）のフレキシブルボタンを押す

お知らせ

- 保留にしたままで一定時間が過ぎると、再呼出音が鳴ります。
- DN（内線）が設定されたフレキシブルボタンの詳細は☞ 35 ページ

通話中にかかってきた電話に応答する（話中時着信）

通話中に電話がかかってきたときに、通話中の電話を保留または切断して、かけてきた相手と通話することができます。

通話中の電話を切断して、かけてきた相手と通話する

1. 話中着信音が聞こえているときに、受話器を戻す

2. 受話器を取る

通話中の電話を保留して、かけてきた相手と通話する

KX-UT123N

1 話中着信音が聞こえているときに、**【保留】**を押す

KX-UT136N

1 話中着信音が聞こえているときに、**【保留】**を押す

2 DN（内線）が設定された着信中（緑点滅［速］）のフレキシブルボタンを押す

お知らせ

- KX-UT136Nでは、自動保留が設定されている場合、手順1で**【保留】**を押す必要がありません。DN（内線）が設定された着信中（緑点滅 [速]）のフレキシブルボタンを押すと、現在の通話を自動的に保留することができます。詳細は、システム管理者にお問い合わせください。
- DN（内線）が設定されたフレキシブルボタンの詳細は☞ 35 ページ

交互に2人の相手と通話する

相手を保留にしたまま別の相手と通話をしている場合に、その通話を保留にし、保留にしていた相手との通話に切り替えることができます。

1 通話中に**【保留】**を押す

2 もう一人の相手と通話する

3 機種に合わせて、以下のいずれかの操作を行う
KX-UT123N
- **【保留】**を押す

KX-UT136N
- **【保留】**を押して、最初に保留にしている相手のDN（内線）が設定されたフレキシブルボタンを押す

お知らせ
- KX-UT136Nでは、自動保留が設定されている場合、手順3で**【保留】**を押す必要がありません。DN（内線）が設定された保留中（緑点滅 [遅]）のフレキシブルボタンを押すと、現在の通話を自動的に保留することができます。詳細は、システム管理者にお問い合わせください。
- DN（内線）が設定されたフレキシブルボタンの詳細は☞ 35 ページ

転送する

別の電話（内線または外線）へ、電話を転送することができます。

転送する

1 通話中に**【転送】**を押す

2 転送したい相手に電話をかける

3 転送先が応答するのを待つ

4 実行 を押す

お知らせ
- オンフック転送が設定されている場合、手順4で 実行 を押す代わりに受話器を戻すことができます。詳細は、システム管理者にお問い合わせください。
- お使いのSIPサーバーがブラインド転送機能に対応している場合は、手順3を省略することができます。詳細は、システム管理者にお問い合わせください。
- KX-UT123Nでは、別の相手との通話を保留（☞ 30 ページ）している場合は転送操作を行うことはできません。

転送先が応答する前に転送する（ブラインド転送）

1 通話中に ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ を押す

2 転送したい相手に電話をかける

3 受話器を戻す

お知らせ
- KX-UT123Nでは、別の相手との通話を保留（☞ 30 ページ）している場合は転送操作を行うことはできません。

ワンタッチで転送する（KX-UT136Nのみ）

1 通話中にBLF（内線状態表示）が設定されたフレキシブルボタンを押す

2 転送先が応答するのを待つ

3 実行 を押す

お知らせ

- オンフック転送が設定されている場合、手順3で 実行 を押す代わりに受話器を戻すことができます。詳細は、システム管理者にお問い合わせください。
- お使いのSIPサーバーがブラインド転送機能に対応している場合は、手順2を省略することができます。詳細は、システム管理者にお問い合わせください。
- フレキシブルボタンの詳細は☞ 35 ページ

通話中に自分の声を相手に聞こえないようにする（ミュート）

通話中に自分の声を相手に聞こえないようにすることができます。ミュート中は、相手の声は聞こえますが、相手には自分の声は聞こえません。
マイク、受話器、ヘッドセットのすべての通話がミュート状態になります。

ミュートを設定／解除する

1. **【ミュート】**を押す

３者会議通話をする

2者通話中に別の相手を加えて、同時に3者での通話ができます。

お知らせ

- お使いのSIPサーバーによっては、4者以上での会議通話など高度な会議機能をサポートしている場合があります。この場合、会議通話を操作する手順が、この章で説明しているものと異なる可能性があります。詳細は、システム管理者にお問い合わせください。

３者会議通話をする

1. 通話中に**【会議】**を押して、通話中の相手を保留にする
2. 通話に加えたい相手に電話をかける
3. 相手とつながったら、**【会議】**を押して3者会議通話を始める

3者会議通話から2者通話に戻す

一方の参加者との通話を終了させ、2者通話に戻します。

KX-UT123N

1. 会議通話中に**【保留】**を押す
   - 3者目の通話相手が保留状態となり、もう一方の相手とは通話状態になります。
2. 受話器を戻す
   - 通話状態になっていた相手との通話が終了します。
3. **【保留】**を押す
   - 保留にしていた3者目の通話相手との通話を続けることができます。

お知らせ

- 2者目ではなく3者目の通話相手との通話を終了するには、手順1で**【保留】**を2回押してください。
- どちらの参加者とも通話を終了せずに3者会議を再開する場合は、手順1の後で**【会議】**を押してください。

KX-UT136N

1. 会議通話中に、**【保留】**を押す
   - 通話相手がすべて保留状態となります。
2. 通話を終了させたい相手のDN（内線）が設定されたフレキシブルボタンを押す
   - 通話を終了させたい相手との通話状態となります。
3. 受話器を戻す
   - 相手との通話が終了します。
4. 残った相手のDN（内線）が設定されたフレキシブルボタンを押す
   - 残った相手と通話を続けることができます。

お知らせ

- どちらの参加者とも通話を終了せずに3者会議を再開する場合は、手順2の後で**【会議】**を押してください。
- DN（内線）が設定されたフレキシブルボタンの詳細は☞ 35 ページ

3者会議通話を終了する

1. 会議通話中に受話器を戻す

ボイスメールを確認する

新着のボイスメールを確認する

新着のボイスメールがあると、**「メッセージ」**が表示され、メッセージ／リンガーLEDが赤く点灯します。メールボックスにアクセスすると、新着メッセージを確認することができます。

1. **【メッセージ】**を押す
2. 複数の回線がある場合、**【▲】**または**【▼】**を押して✉が表示されている回線を選択し、受話器をとる

不在着信を確認する

不在着信があると、**「不在着信: XXX」**と表示されます。（**「XXX」**は不在着信の件数を示しています。）

1. 履歴 を押す
2. **【▲】**または**【▼】**を押して、**「着信履歴」**または**「不在着信」**を選択し、**【決定】**を押す
3. **【▲】**または**【▼】**を押して不在着信を選択する

お知らせ

- 着信履歴画面では、不在着信には**「未応答」**と表示されます。KX-UT123Nでは、**【►】**を押して確認してください。
- 通話履歴から電話をかけるには☞ 27 ページ
- 応答した着信、および確認済みの不在着信には、チェックマークが表示されます。

不在転送／不在設定を設定する

不在設定をすると、席を離れるときや電話に出られないときに、電話がかかってきても着信をしないようにすることができます。
不在転送は、席を離れるときなどにあらかじめ設定しておくと、かかってきた電話を別の電話機に転送することができます。

お知らせ

- 不在転送や不在設定の設定を行うと、待機中に 転送/不在 が表示されます。

不在転送／不在設定を設定する

1 待機中に 設定 または **【不在】** を押す

- **【不在】** を押した場合は、手順3へ進んでください。

2 **【▲】** または **【▼】** を押して **「不在転送/不在設定」** を選択し、**【決定】** を押す

3 複数の回線が使用可能な場合は、**【▲】** または **【▼】** を押して使用する回線を選択し、**【決定】** を押す

4 **【▲】** または **【▼】** を押して不在転送または不在設定の種類を選択し、**【決定】** を押す

5 必要に応じて設定を行う（☞ 43 ページ）

フレキシブルボタンを使用する（KX-UT136Nのみ）

本機のフレキシブルボタンは、発着信に使用したり、機能を登録して使用したりすることができます。ボタンの設定はシステム管理者が行ってください。
フレキシブルボタンには、以下の機能を登録できます。

DN

発信や着信を行うときに使用する回線の状態を表示します。DN（内線）が設定されたフレキシブルボタンを押して、着信に応答したり、保留を解除したりすることができます。

LEDの状態

- **消灯**：待機中
- **緑（点灯）**：通話中
- **緑（点滅［速］）**：着信中
- **緑（点滅［遅］）**： 保留中
- **赤（点灯）**：共用回線が他の電話機により使用中、または保留中（プライベート）
- **赤（点滅［遅］）**：共用回線が他の電話機により保留中（通常）

お知らせ

- Webプログラミングを使用して、DN（内線）が設定された各フレキシブルボタンに着信音を設定することができます。着信時に、ボタンに設定された着信音が鳴ります。詳細は、システム管理者にお問い合わせください。
  本機の設定（☞ 42 ページ）で着信音を指定している場合は、各ボタンに設定した着信音ではなく、本機で設定した着信音が使用されます。
- 共用回線とは、複数の電話機で共用して使用できる回線です。お使いのSIPサーバーによっては対応していない場合があります。

ワンタッチ

電話をかけたり、ボタンに登録した機能を使用したりすることができます（☞ 27 ページ）。

ヘッドセット

ヘッドセットモードを切り替えます。

LEDの状態

- **消灯**：ヘッドセットオフ

- **赤（点灯）**： ヘッドセットオン

BLF

ボタンに登録した内線番号へ電話をかけます。通話中にBLF（内線状態表示）が設定されたフレキシブルボタンを押すと、登録した内線に電話を転送します（☞ 31 ページ）。

LEDの状態

- **消灯**：登録した内線が待機中
- **赤（点灯）**：登録した内線が通話中
- **赤（点滅［速］）**：登録した内線に着信中
  Webプログラミングの設定により、BLF（内線状態表示）が設定されたフレキシブルボタンを押して登録した内線への着信に応答することができます。
- **緑（点灯）**：コールパーク機能使用時に、登録したパークエリアに自分でパークした電話が保留中

お知らせ

- BLF、コールパーク機能、一部のLED表示は、お使いのSIPサーバーによっては対応していない場合があります。

ACD

ACDグループが設定されている場合は、グループへのログイン／ログアウトを切り替えることができます。

LEDの状態

- **消灯**：ログイン
- **赤（点灯）**：ログアウト

お知らせ

- ACDはお使いのSIPサーバーによっては対応していない場合があります。

より便利に使う

電話帳を使う

電話帳に連絡先を追加する

最大500件の連絡先を登録することができます。
電話帳を使って電話をかけるには☞ 26 ページ

1 電話帳 を押す

2 登録 を押す

3 名前を入力し（全角で最大12文字または半角で最大24文字）、**【決定】**を押す

4 フリガナを入力し（最大24文字）、**【決定】**を押す

5 **【▲】**または**【▼】**を押して、電話番号の種類（❶～❺）または**「着信音 X」**を選択し、**【決定】**を押す

6 前の手順での選択に合わせて、以下の操作を行う
電話番号の種類を選択した場合
- 電話番号を入力し（最大32桁）、**【決定】**を押す

「着信音 X」を選択した場合
- この相手から電話を受けるときに鳴る着信音色を選択し、**【決定】**を押す

7 同じ連絡先に電話番号を追加する場合は、手順5からの操作を繰り返してください。

8 保存 を押す

お知らせ

- 1件の連絡先に複数の電話番号を登録する場合、この相手にかけるときに優先する番号を設定することができます。手順5で希望する番号を選んで、 優先 を押してください。
- 文字入力のしかたは ☞ 49 ページ
- 1分間ボタン操作が無い場合は、待機画面へ戻ります。

着信履歴または不在着信履歴から連絡先を追加する

着信履歴または不在着信履歴を使って、電話帳へ連絡先を追加することができます。

1 履歴 を押す

2 **【▲】**または**【▼】**を押して、**「着信履歴」**または**「不在着信」**を選択し、**【決定】**を押す

3 **【▲】**または**【▼】**を押して登録したい項目を選択し、保存 を押す

4 **「電話帳」**を選択し、**【決定】**を押す

5 名前を入力し（全角で最大12文字または半角で最大24文字）、**【決定】**を押す

6 フリガナを入力し（最大24文字）、**【決定】**を押す

7 **【▲】**または**【▼】**を押して、電話番号の種類（❶～❺）または**「着信音 X」**を選択し、 **【決定】**を押す

8 前の手順での選択に合わせて、以下の操作を行う
電話番号の種類を選択した場合
- 電話番号を入力し（最大32桁）、**【決定】**を押す

「着信音 X」を選択した場合
- 着信音を選択し、**【決定】**を押す

9 同じ連絡先に電話番号を追加する場合は、手順7からの操作を繰り返してください。

10 保存 を押す

お知らせ

- 通話履歴に名前が記憶されている場合、手順5で自動的に名前が表示されます。
- 1件の連絡先に複数の電話番号を登録する場合、相手にかけるときに優先して使用する番号を設定することができます。手順7で番号を選んで、 優先 を押してください。
- 文字入力のしかたは☞ 49 ページ
- 1分間ボタン操作が無い場合は、待機画面へ戻ります。

連絡先を編集する

連絡先に登録してあるデータを編集します。

1 電話帳 を押す

2 **【▲】**または**【▼】**を押して編集する連絡先を表示する または、 検索 を押して連絡先を検索する（☞ 38 ページ）

3 機種に合わせて、以下の操作を行う
KX-UT123N
- メニュー を押して「**編集**」を選択し、【**決定**】を押す

KX-UT136N
- 編集 を押す

4 【▲】または【▼】を押して編集したい項目を選択し、【**決定**】を押す

5 必要に応じて項目を編集し、【**決定**】を押す

6 保存 を押す

お知らせ
- 1件の連絡先に複数の電話番号を登録する場合、相手にかけるときに優先して使用する番号を設定することができます。手順4で番号を選んで、優先 を押してください。
- 1分間ボタン操作が無い場合は、待機画面へ戻ります。

連絡先を検索する

電話帳に登録してあるデータを検索します。

1 電話帳 を押す

2 検索 を押す

3 検索したい名前（フリガナ）を入力し、【**決定**】を押す

お知らせ
- 文字入力のしかたは☞ 49 ページ

連絡先を削除する

電話帳に登録してあるデータを削除します。

1 電話帳 を押す

2 【▲】または【▼】を押して削除したい連絡先を表示する
または、 検索 を押して削除したい連絡先を検索する（☞ 38 ページ）

3 機種に合わせて、以下の操作を行う
KX-UT123N
- メニュー を押して「**消去**」を選択し、【**決定**】を押す

KX-UT136N
- 消去 を押す

4 【▲】または【▼】を押して「**はい**」を選択し、【**決定**】を押す

電話帳をエクスポート／インポートする

Webプログラミングを使用して、お使いのパソコンへタブ区切り形式のファイルで電話帳をエクスポートすることができます。これにより、スプレッドシートアプリケーションやテキストエディタを使用して、パソコン上で連絡先の追加や編集をすることができます。編集後は、ファイルを本機へインポートできます。
また、本機からエクスポートした電話帳を、別の電話機へインポートすることもできます。
電話帳のエクスポート／インポートについては、システム管理者にお問い合わせください。

お願い
- 電話帳をエクスポートしてパソコンで連絡先を削除した場合、再度同じ電話機にインポートしても、電話機の電話帳からは削除されません。不要な連絡先は、Webプログラミングからではなく、ご使用の電話機から削除してください。

お知らせ
- 電話帳をインポートまたはエクスポートしている間、電話をかけたり受けたりすることができません。

本機を設定する

本機の設定を、お好みに合わせて変更することができます。
この章では、本機を使用して各種設定を行う方法について説明します。

設定のしかた

1 待機中に 設定 を押す

2 **【▲】**または**【▼】**を押して設定する項目のカテゴリーを選択し、 **【決定】**を押す

3 必要に応じて設定を変更する

設定できる項目

- 着信音
  - 着信音量 ☞ 42 ページ
  - 着信音色 ☞ 42 ページ
- ECOモード ☞ 42 ページ
- LCDコントラスト ☞ 43 ページ
- バックライト ☞ 43 ページ
- ディスプレイロック ☞ 43 ページ
- ボタン確認音 ☞ 43 ページ
- 不在転送/不在設定
  - 不在設定 ☞ 44 ページ
  - 不在転送 ☞ 44 ページ
  - 話中転送 ☞ 44 ページ
  - 不応答転送 ☞ 44 ページ
- 時計設定 ☞ 44 ページ
- インフォメーション表示 ☞ 45 ページ
- ネットワーク設定
  - ネットワーク
    - アドレス自動取得
      - DNS ☞ 45 ページ
        - DNS1[*1] ☞ 45 ページ
        - DNS2[*1] ☞ 46 ページ
    - アドレス指定
      - IPアドレス ☞ 46 ページ
      - サブネットマスク ☞ 46 ページ
      - デフォルトゲートウェイ ☞ 46 ページ
      - DNS1 ☞ 46 ページ
      - DNS2 ☞ 46 ページ
  - VLAN
    - VLAN設定 ☞ 46 ページ
      - IP電話機 ☞ 46 ページ
      - PC側 ☞ 46 ページ

┃	┣ 通信速度/通信方式	┳ LAN ポート	☞ 47 ページ
┃	┃	┗ PC ポート	☞ 47 ページ
┃	┗ 内蔵Web		☞ 47 ページ
┣ ネットワーク試験			☞ 47 ページ
┣ リスタート			☞ 47 ページ
┣ ファームウェアバージョン			☞ 47 ページ
┗ 着信拒否			☞ 48 ページ

*1 これらの設定は、**「DNS」**が**「アドレス指定」**に設定されている場合のみ設定可能です。

設定項目について

着信音

項目	説明	設定できる内容	初期値
着信音量	着信音の音量を調節します。	0～6段階	3
着信音色	着信時に使用する着信音を選択します。 複数の回線が使用可能な場合は、先に着信音を設定する回線を選択します。回線ごとに異なる着信音を設定することができます。 KX-UT136Nでは、「**自動**」を選択すると、Webプログラミング（☞ 52 ページ）で設定した着信音が使用されます。 各着信音は、選択時に音色を確認することができます。	自動（KX-UT136Nのみ）、着信音1～32	自動（KX-UT136N） 着信音1（KX-UT123N）

お知らせ

- 着信音20～24は着信音1と同じ着信音です。
- 着信音量が「**オフ**」になっている場合でも、各着信音を選択して音色を確認することができます。ただし、「**自動**」を選択した場合は音色を確認できません。
- 着信音は電話帳へ設定することもできます（☞ 37 ページ）。
- KX-UT136Nでは、Webプログラミング（☞ 52 ページ）を使用して、DN（内線）が設定されたフレキシブルボタン（☞ 35 ページ）に個別に着信音を設定することができます。ただし、本設定で着信音を指定した場合は、DN（内線）ボタンに設定した着信音ではなく、本設定の着信音が使用されます。詳細はシステム管理者にお問い合わせください。

ECOモード

項目	説明	設定できる内容	初期値
ECOモード	本機の消費電力量を減らすことができます。	オン、オフ	オフ

お知らせ

- ECOモードを設定している場合、通信速度／通信方式設定（☞ 46 ページ）は以下のように変更します。
  - 通信速度／通信方式：**「10M全二重」**
  - PCポート：使用不可
- ECOモード設定が変更されると、本機は再起動します。
- ECOモードが設定されている場合、待機中は ECO が表示されます。

LCDコントラスト

項目	説明	設定できる内容	初期値
LCDコントラスト	画面のコントラスト（濃淡）を調節します。	1～6段階	3

バックライト

項目	説明	設定できる内容	初期値
バックライト	バックライトの設定を変更します。	点灯 自動 消灯	自動
	「点灯」または**「自動」**を選択した場合、**【▲】**または**【▼】**を押して明るさを調節します。	1～3段階	3

お知らせ

- **「自動」**が選択された場合、電話が待機中になるとバックライトは消灯します。

ディスプレイロック

項目	説明	設定できる内容	初期値
ディスプレイロック	本機の内線暗証番号を入力し、通話履歴と電話帳へのアクセスをロックします。	オン、オフ	オフ

お知らせ

- 内線暗証番号は、Webプログラミングから設定可能です。詳細は、システム管理者にお問い合わせください。

ボタン確認音

項目	説明	設定できる内容	初期値
ボタン確認音	ボタンを押したときに確認音を鳴らすかどうかを設定します。 **「自動」**を選択した場合は、Webプログラミング（☞ 52 ページ）で設定した内容が使用されます。	自動、オン、オフ	自動

不在転送/不在設定

本機で複数の回線が使用可能な場合は、**「不在転送/不在設定」**の設定時に、**【▲】**または**【▼】**を押して、設定する回線を選択してください。

項目	説明	設定できる内容	初期値
不在設定	電話がかかってきても着信しないように設定します。	オン、オフ	オフ
不在転送	すべての着信を、設定した転送先へ転送します。	—	—
オン/オフ	**「不在転送」**を有効にします。	オン、オフ	オフ
電話番号	**「不在転送」**を有効にした場合、転送先の電話番号を指定します。	1～32桁	—
話中転送	通話中にかかってきた電話を、設定した転送先へ転送します。	—	—
オン/オフ	**「話中転送」**を有効にします。	オン、オフ	オフ
電話番号	**「話中転送」**を有効にした場合、転送先の電話番号を設定します。	1～32桁	—
不応答転送	かかってきた電話に一定時間応答しなかった場合、設定した転送先へ転送します。	—	—
オン/オフ	**「不応答転送」**を有効にします。	オン、オフ	オフ
電話番号	**「不応答転送」**を有効にした場合、転送先の電話番号を設定します。	1～32桁	—
鳴動回数	着信後、転送に切り替えるまでの呼び出し回数を設定します。	0、2～20	3

時計設定

項目	説明	設定できる内容	初期値
時計設定	日時を設定します。	日付：年／月／日 時間[*1]：00:00-23:59 または午前／午後 00:00-11:59	—

[*1] **【*】**を押して時間形式（12時間表示、または24時間表示）を切り替えることができます。

インフォメーション表示

項目	説明	設定できる内容	初期値
インフォメーション表示	本機のさまざまな情報を確認できます。【▲】または【▼】を押して設定を表示します。以下の設定を確認することができます。 • SIPサーバーへの登録状態 • IPアドレス • サブネットマスク • デフォルトゲートウェイ • DNSサーバー1のIP アドレス • DNSサーバー2のIP アドレス • ACS の状態 • ディスプレイロックの状態 • ファームウェアバージョン • MACアドレス	—	—

ネットワーク設定

重要

これらの設定は、システム管理者が行うことをお勧めします。ネットワーク設定は、Webプログラミングから設定することも可能です。詳細は、システム管理者にお問い合わせください。

項目	説明	設定できる内容	初期値
ネットワーク	ネットワークの基本設定を行います。**「アドレス自動取得」**を選択した場合は、DNSサーバーを自動で取得するか、手動で設定するかを設定します。**「アドレス指定」**を選択した場合は、IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバーアドレスを入力してください。	アドレス自動取得、アドレス指定	—
「アドレス自動取得」を選択した場合			
DNS	DNSサーバーを自動で取得するか、手動で設定するかを設定します。**「アドレス指定」**を選択した場合は、以下の**「DNS1」**および**「DNS2」**を参照してください。	アドレス指定、アドレス自動取得	アドレス自動取得
DNS1[*1]（DNS手動設定時のみ）	DNSサーバー1のIPアドレスを入力します。	xxx.xxx.xxx.xxx	—

項目	説明	設定できる内容	初期値
DNS2[*1]（DNS手動設定時のみ）	DNSサーバー2のIPアドレスを入力します。 DNSサーバー2が不要な場合は、本設定は設定不要です。	xxx.xxx.xxx.xxx	—
「アドレス指定」を選択した場合			
IPアドレス[*1]	本機に割り当てるIPアドレスを入力します。	xxx.xxx.xxx.xxx	—
サブネットマスク[*1]	ご使用のネットワークのサブネットマスクを入力します。	xxx.xxx.xxx.xxx	—
デフォルトゲートウェイ[*1]	ご使用のネットワークのデフォルトゲートウェイのIPアドレスを入力します。	xxx.xxx.xxx.xxx	—
DNS1[*1]	DNSサーバー1のIPアドレスを入力します。	xxx.xxx.xxx.xxx	—
DNS2[*1]	DNSサーバー2のIPアドレスを入力します。 DNSサーバー2が不要な場合は、本設定は設定不要です。	xxx.xxx.xxx.xxx	—
VLAN	VLAN設定を行います。	—	—
VLAN設定	VLAN機能を有効にするか選択します。	許可、禁止	禁止
IP電話機	VLANで電話機能を使用する場合に必要な設定を行います。	—	—
VLAN ID	VLAN IDを入力します。	1-4094	2
プライオリティ	本機が送信するパケットの優先度を入力します。	0-7	7
PC側	VLANでパソコンを使用する場合に必要な設定を行います。	—	—
VLAN ID	VLAN IDを入力します。	1-4094	1
プライオリティ	本機が送信するパケットの優先度を入力します。	0-7	0
通信速度/通信方式	LANポートとPCポートの接続モード（通信速度／通信方式）を設定します。	—	—

項目		説明	設定できる内容	初期値
	LAN ポート	LANポートの接続モードを設定します。	自動、10M全二重、10M半二重、100M全二重、100M半二重	自動
	PC ポート	PCポートの接続モードを設定します。	自動、10M全二重、10M半二重、100M全二重、100M半二重	自動
内蔵Web		Webプログラミングを有効にします。	オープン、クローズ	クローズ

*1 【▲】または【▼】を押して項目を切り替えてください。

ネットワーク試験

項目	説明	設定できる内容	初期値
ネットワーク試験	他のネットワーク機器（SIPサーバー、ルーター、スイッチングハブなど）がネットワーク要求に応答しているか確認します。この項目を選択し、接続テストを行う機器のIPアドレスを入力します。 機器が応答しない場合は、本機のネットワーク設定を確認してから、機器側のネットワーク設定と接続を確認してください。	xxx.xxx.xxx.xxx	—

リスタート

項目	説明	設定できる内容	初期値
リスタート	本機を再起動します （☞ 67 ページ）。	—	—

ファームウェアバージョン

項目	説明	設定できる内容	初期値
ファームウェアバージョン	現在インストールされているファームウェアのバージョンを確認します。新しいバージョンが提供されている場合は、そのバージョン番号が表示されます。 更新 を押して、ファームウェアを更新してください。	—	—

お知らせ

- 機能の追加や改善を行うために、新しいソフトウェアが提供される場合があります。Webプログラミングでソフトウェアの更新を手動で行うように設定している場合は、**「実行ボタンを押してソフトウェアを更新してください」**が表示されたら更新データをダウンロードしてください。詳細は、システム管理者にお問い合わせください。

着信拒否

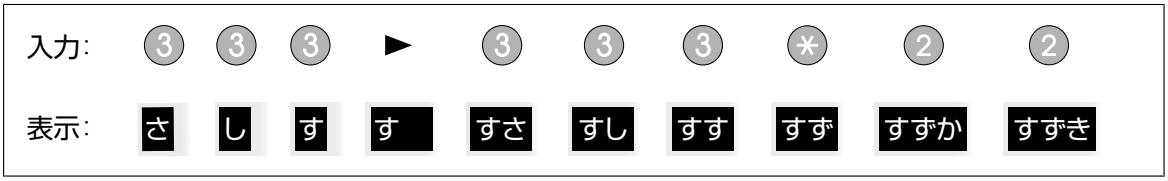
項目	説明	設定できる内容	初期値
着信拒否	着信を受けないようにする電話番号を登録します。登録した電話番号を削除することも可能です。 **登録する** **1** 登録 を押す **2** 電話番号を入力し、**【決定】**を押す **編集する** **1** **【▲】**または**【▼】**を押して編集したい登録番号を選択する **2** 編集 を押す **3** 電話番号を編集し、**【決定】**を押す **削除する** **1** **【▲】**または**【▼】**を押して削除したい登録番号を選択する **2** 消去 を押す **3** **「はい」**を選択し、**【決定】**を押す	—	—

文字入力のしかた

文字や数字の入力には、ダイヤルキーを使用します。各ダイヤルキーには複数の文字が割り当てられています。
文字を入力するには、入力したい文字が表示されるまで対応するダイヤルキーを押します。同じキーに割り当てられた文字を続けて入力する場合は、【►】を押してカーソルを右に移動させます。

例

「**すずき**」と入力するには、以下のようにキーを押します。



各キーに割り当てられた文字については☞ 51 ページ

入力した文字を変換する

変換 を押して、入力した文字を変換できます。

お知らせ

- 変換 を繰り返し押すと、別の変換候補が表示されます。

文字を削除する

クリア を押すと、最後に入力した文字が削除されます。

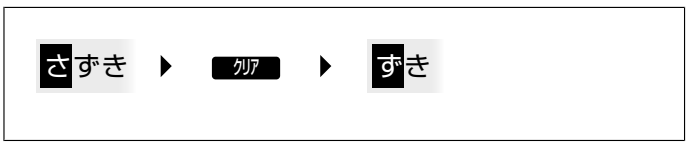
お知らせ

- クリア を長押しすると、入力したすべての文字を削除します。

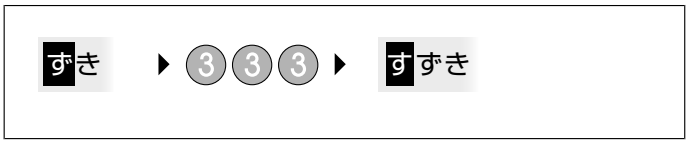
入力した文字を修正する

【◄】または【►】を押して修正したい文字にカーソルを動かし、以下のように文字を修正します。

- クリア を押して、カーソル上の文字を削除する



- ダイヤルキーを押して、カーソルの位置に文字を挿入する



お知らせ

- 入力できる最大数の文字が入力されると、カーソル上の文字は次に入力する文字で上書きされます。
- 入力した文字列が2行以上になる場合は、【▲】または【▼】を押してカーソルを動かすことも可能です。

全角と半角を切り替える

全角 または 半角 が表示されている場合は、全角と半角を切り替えて入力することができます。
全角 または 半角 を押すと、次に入力する文字の全角／半角を切り替えます。

- 全角カタカナを半角カタカナに切り替えて入力する場合：

入力モード

入力モードを切り替えて、文字を入力することができます。
入力モードを切り替えるには、 かな漢 ／ カ ／ ABC ／ 123 を押して表示したい入力モードを選択します。また、 全角 または 半角 を押して、入力モードの全角／半角を切り替えることができます。
使用できる入力モードは、以下のとおりです。

アイコン	説明
かな漢	ひらがな入力モード ひらがなと記号が入力できます。入力した文字を漢字に変換することもできます（☞ 49 ページ）。
カ ／ 全角	カタカナ（全角）入力モード 全角カタカナと記号が入力できます。
カ ／ 半角	カタカナ（半角）入力モード 半角カタカナと記号が入力できます。
ABC ／ 半角	アルファベット（半角）入力モード 半角アルファベットと記号が入力できます。
ABC ／ 全角	アルファベット（全角）入力モード 全角アルファベットと記号が入力できます。
123 ／ 半角	数字（半角）入力モード 半角数字と記号が入力できます。
123 ／ 全角	数字（全角）入力モード 全角数字と記号が入力できます。

お知らせ

- 各入力モードで入力できる文字については☞ 51 ページ

- 入力するデータの種類によっては、入力モードを切り替えることができない場合があります。
  例：電話番号入力時には、数字モードしか使用できません。

入力可能文字一覧

キー	文字入力モード						
	ひらがな	カタカナ（全角）	カタカナ（半角）	アルファベット（半角）	アルファベット（全角）	数字（半角）	数字（全角）
①	あいうえお ぁぃぅぇぉ	アイウエオ ァィゥェォ	ｱｲｳｴｵ ｧｨｩｪｫ	-	-	1	1
②	かきくけこ	カキクケコ	ｶｷｸｹｺ	ABCabc	ＡＢＣａｂｃ	2	2
③	さしすせそ	サシスセソ	ｻｼｽｾｿ	DEFdef	ＤＥＦｄｅｆ	3	3
④	たちつてとっ	タチツテトッ	ﾀﾁﾂﾃﾄｯ	GHIghi	ＧＨＩｇｈｉ	4	4
⑤	なにぬねの	ナニヌネノ	ﾅﾆﾇﾈﾉ	JKLjkl	ＪＫＬｊｋｌ	5	5
⑥	はひふへほ	ハヒフヘホ	ﾊﾋﾌﾍﾎ	MNOmno	ＭＮＯｍｎｏ	6	6
⑦	まみむめも	マミムメモ	ﾏﾐﾑﾒﾓ	PQRSpqrs	ＰＱＲＳｐｑｒｓ	7	7
⑧	やゆよゃゅょ	ヤユヨャュョ	ﾔﾕﾖｬｭｮ	TUVtuv	ＴＵＶｔｕｖ	8	8
⑨	らりるれろ	ラリルレロ	ﾗﾘﾙﾚﾛ	WXYZwxyz	ＷＸＹＺｗｘｙｚ	9	9
⓪	わをん	ワヲン	ﾜｦﾝ	-	-	0	0
✱	゛゜	゛゜	ﾞﾟ	.-@_/:~	．－＠＿／：～	*	＊
#	、。ー・！？ <全角スペース>	，。ー・！？ <全角スペース>	､｡-･!? <半角スペース>	,!?¥&()*#"'=^+;	，！？￥＆（）＊＃”’＝＾＋；	#	＃

Webプログラミング

Webプログラミングを使用して、本機からは設定できない様々な機能を設定することができます。以下は、Webプログラミングで設定できる幾つかの機能を挙げています。
詳細は、システム管理者にお問い合わせください。

- ネットワーク設定[*1]（☞ 45 ページ）
- ユーザーパスワード（Webプログラミングへのアクセス用）
- HTTP認証設定
- 時刻設定[*1]（☞ 44 ページ）
- 通常使用する回線番号
- 着信拒否番号[*1]（☞ 48 ページ）
- 発信者番号非通知
- 非通知着信拒否
- 不在設定[*1]（☞ 43 ページ）
- 不在転送[*1]（☞ 43 ページ）
- フレキシブルボタン設定（KX-UT136Nのみ）（☞ 35 ページ）
- ボタン確認音
- 内線暗証番号
- 電話帳インポート／エクスポート（☞ 38 ページ）

[*1] これらの設定は、本機から行うことも可能です。

お願い

- Webプログラミングを行うには、必ずWebプログラミングへのアクセス（内蔵Web）を有効に設定してください（☞ 47 ページ）。

本機を接続／設置する

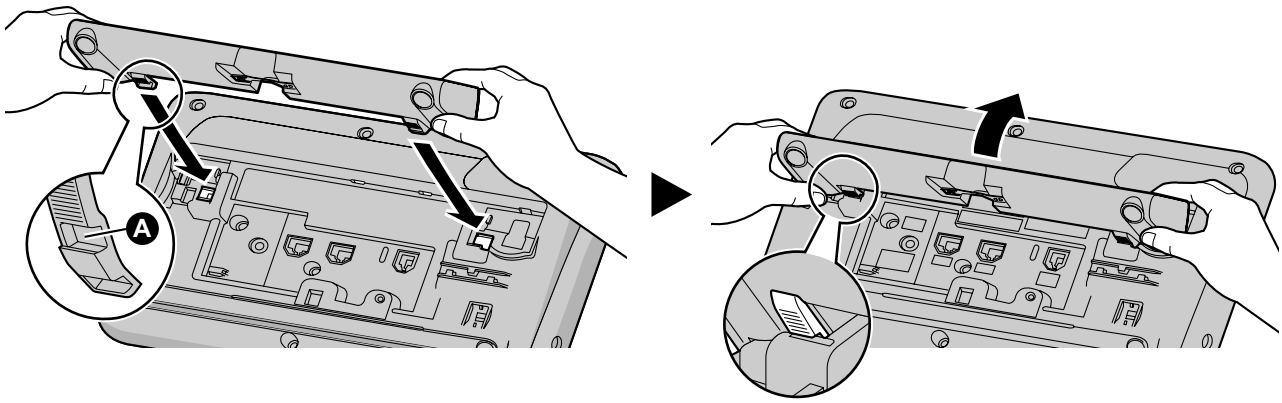
スタンドを取り付ける／取り外す

スタンドを取り付ける

KX-UT136N

1 スタンドのツメ(Ⓐ)を本機背面の差し込み口に差し込む

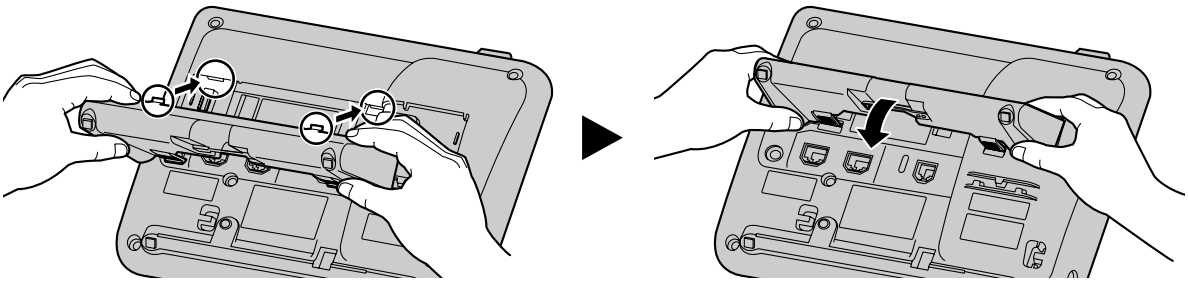
2 矢印の方向にスタンドをゆっくり押して固定する
本体の角度が高い位置に、スタンドが取り付けられます。



KX-UT123N

1 スタンドのツメを本機背面の差し込み口に差し込む

2 矢印の方向にスタンドをゆっくり押して固定する
スタンドが取り付けられます。

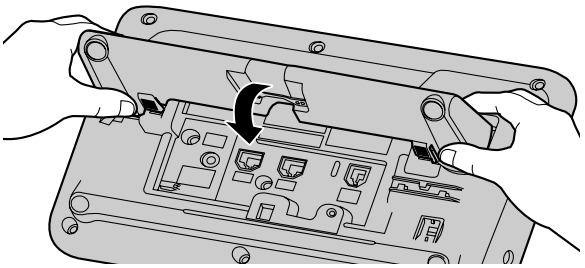


スタンドを取り外す

KX-UT136N

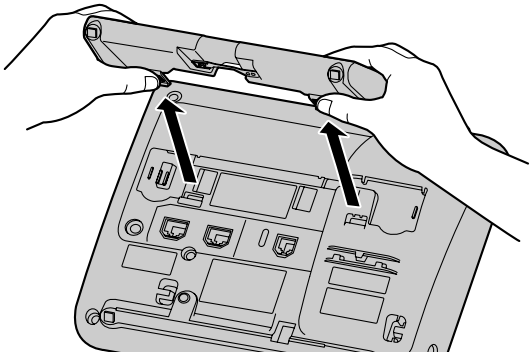
1 スタンドを両手で持つ

2 スタンドを矢印の方向にゆっくりと回して取り外す

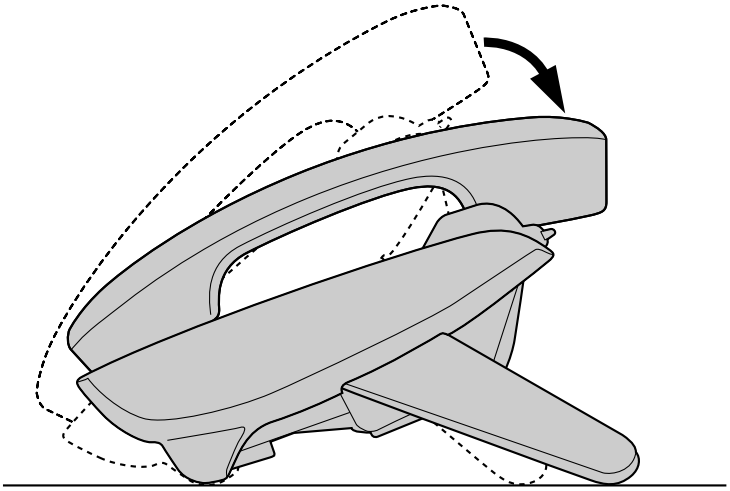


KX-UT123N

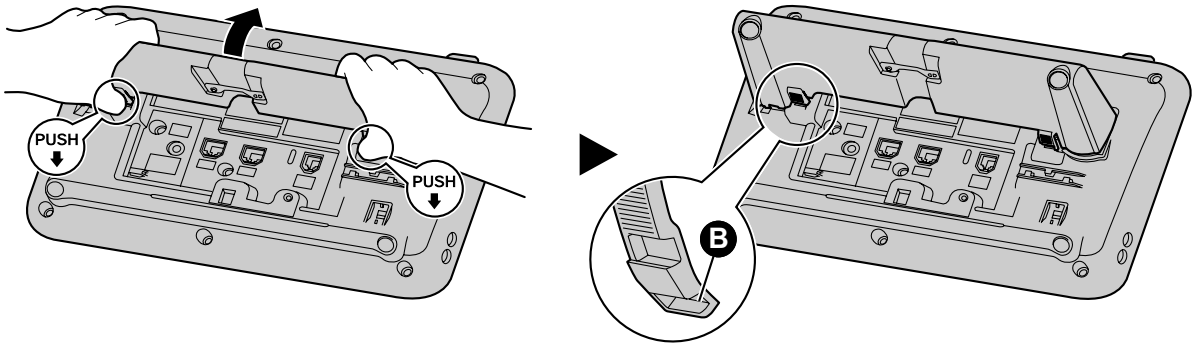
1 スタンドのツメを両手で押しながら、矢印の方向にスタンドを取り外す



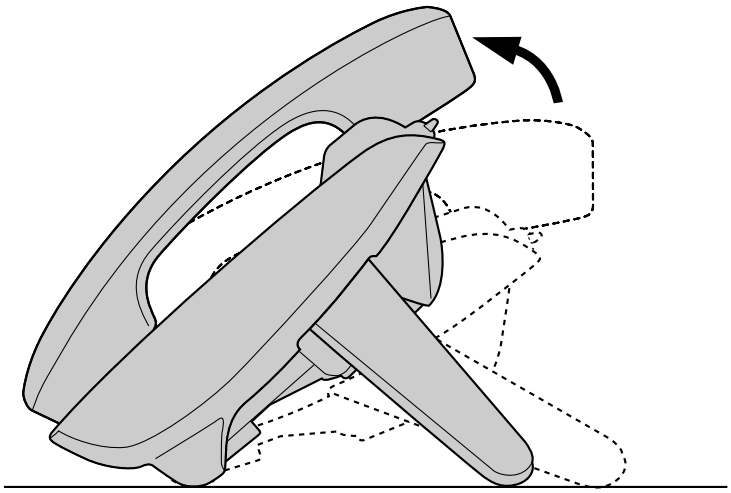
本体の角度を高い位置から低い位置へ調節する（KX-UT136Nのみ）



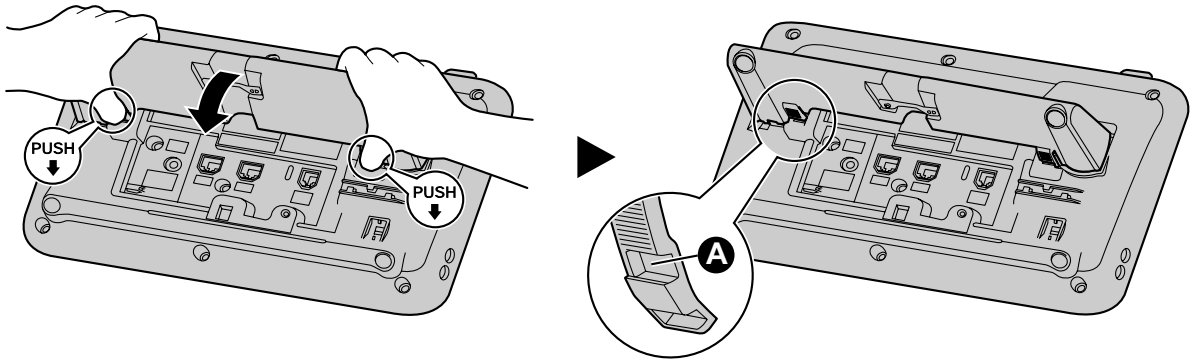
1 スタンドのPUSHマークを両手で押しながら矢印の方向にスタンドを傾け、ツメ(Ⓑ)の位置で固定する



本体の角度を低い位置から高い位置へ調節する（KX-UT136Nのみ）



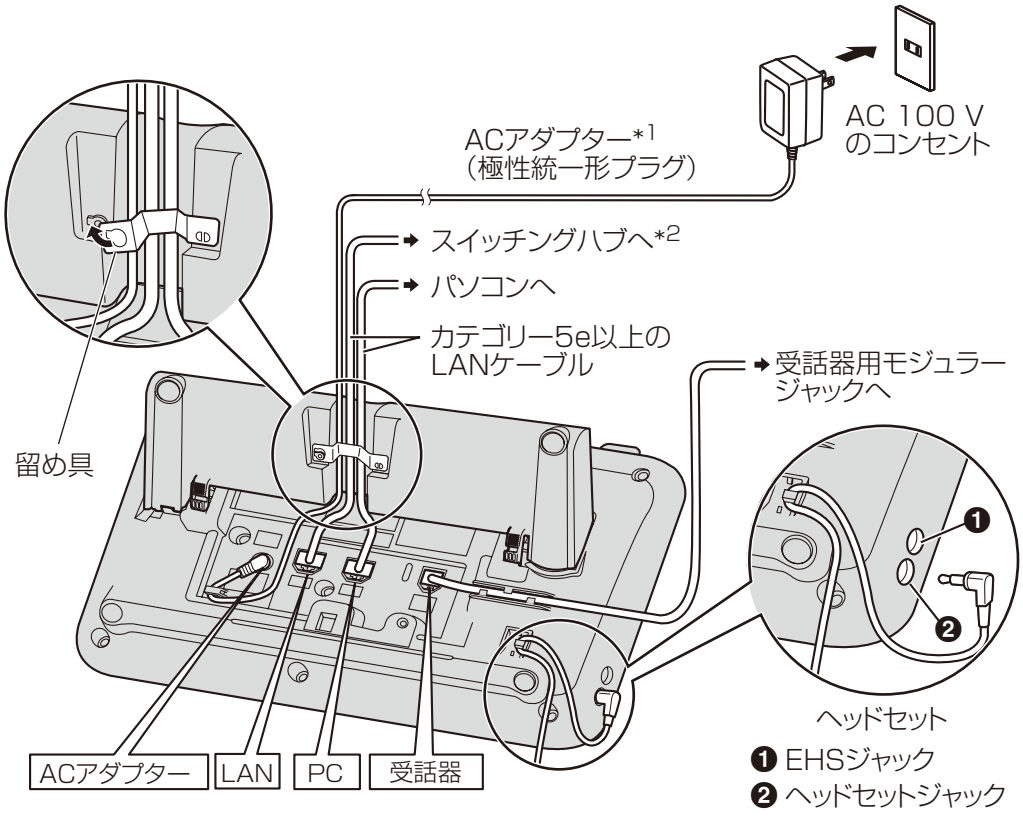
1 スタンドのPUSHマークを両手で押しながらスタンドを矢印の方向に傾け、ツメを(Ⓐ)の位置で固定する



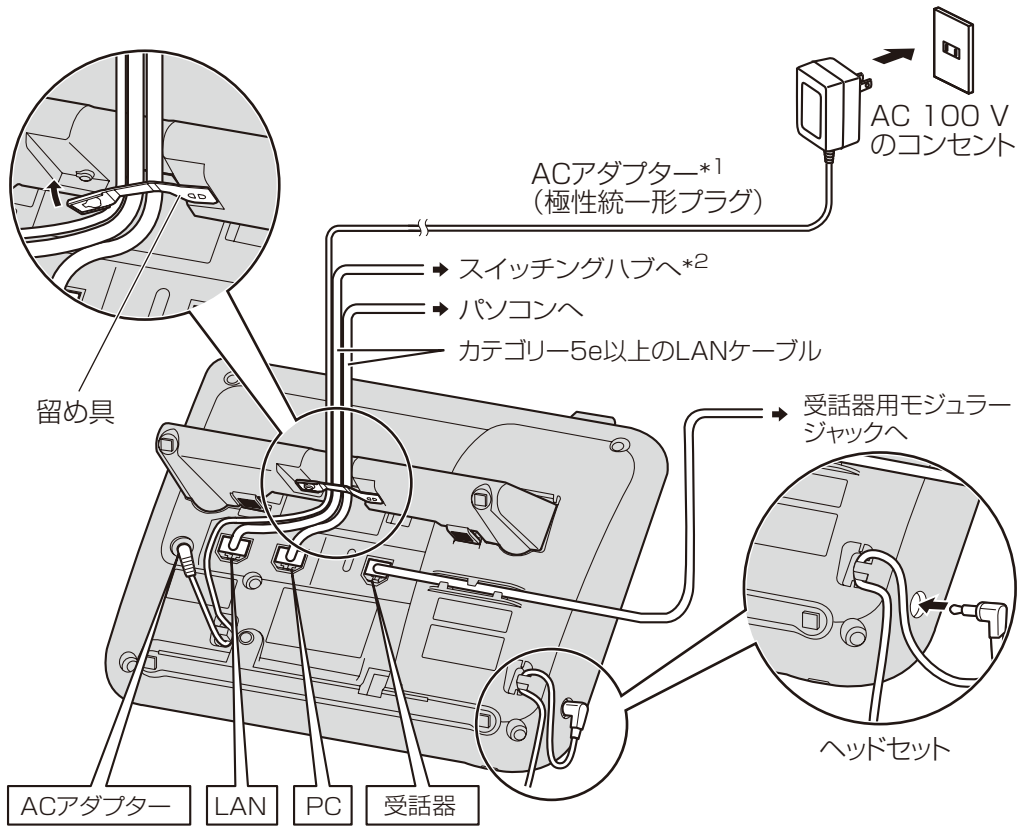
本機を接続する

LANケーブル、ACアダプター、ヘッドセットの接続

KX-UT136N



KX-UT123N



*1 PoE給電の場合は、ACアダプターは不要です。
*2 PoE給電の場合は、PoEクラス2に対応したPoEスイッチングハブを使用してください。

お願い

ACアダプター（別売品）

- パナソニック製のACアダプター（品番：KX-A239N [PQLV206JP]）をご使用ください。
- 電源プラグは、本機の近くにあるコンセントに差し込み、簡単に抜き差しができるようにしてください。

ヘッドセットを接続する場合

- ヘッドセットコードはたるみを持たせて使用してください。コードを引っ張った状態で使用するとコネクターが損傷するおそれがあります。

お願い

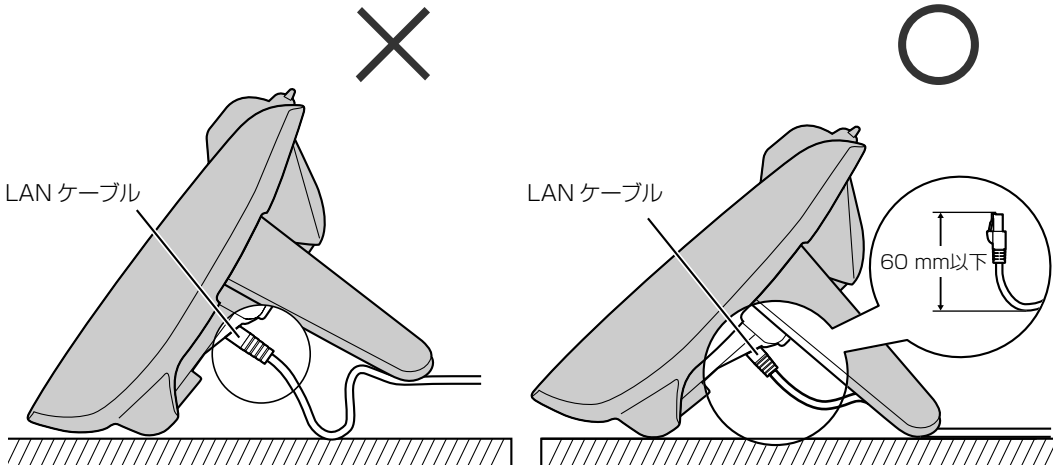
- 以下のヘッドセットを使用することができます。（すべての動作を保証するものではありません。）
  - 有線ヘッドセット：
    Plantronics®製のヘッドセット
  - EHSヘッドセット：
    Plantronics製のヘッドセット

  動作確認済みのヘッドセットの最新情報は下記サイトでご確認ください。
  http://panasonic.biz/netsys/sipphone/

LANケーブル（市販品）について

- 直径6.5 mm以下のカテゴリー5eストレートケーブル（市販品）をご使用ください。

- 柔軟性のある、ジャックカバーが無いLANケーブルを使用してください。表面が硬いLANケーブルは曲げたときに割れたり裂けたりするおそれがありますので使用しないでください。
  LANケーブルが損傷しないように、LANケーブルは本機の底面から突き出ないようにしてください。
  LANケーブルは、下図のように接続してください。



パソコンの接続について

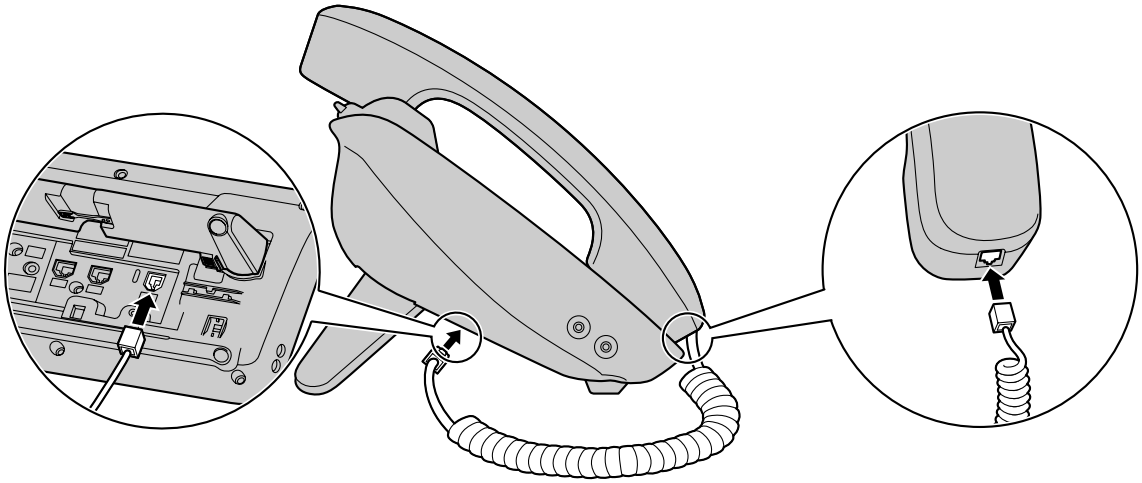
- PCポートにはパソコンのみ接続するようにしてください。他のSIP電話機や、ルーター、スイッチングハブなどは接続できません。
- PCポートはPoEに対応していません。

LANケーブルとACアダプターの接続について

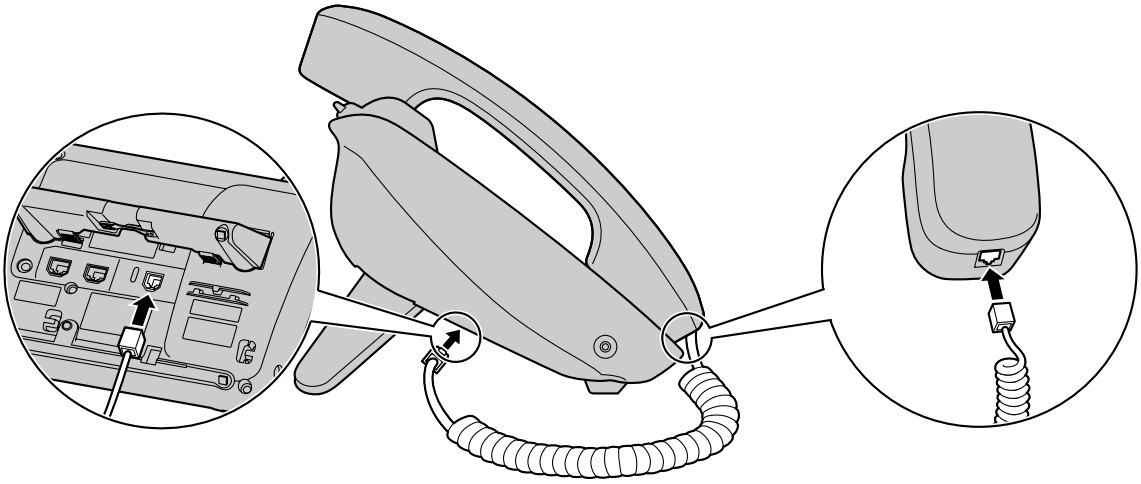
- LANケーブルとACアダプターコードは、損傷しないように留め具で固定するようにしてください。

受話器を取り付ける

KX-UT136N



KX-UT123N



壁に設置する

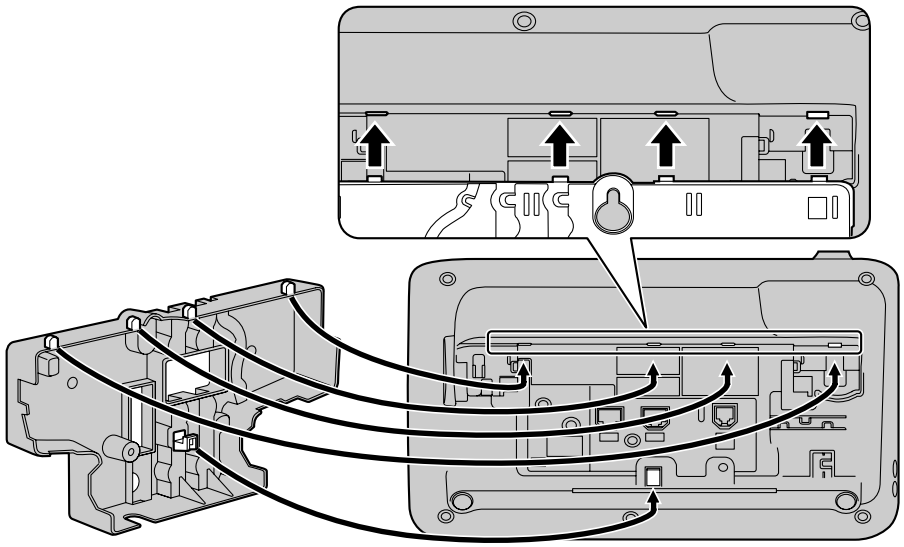
本機を壁に設置する場合は、別売りの壁掛けキットが必要です。
スタンドを取り付けている場合は、スタンドを取り外してください（☞ 54 ページ）。
壁掛け時の注意をよくお読みのうえ、取り付けてください（☞ 7 ページ）。

お願い

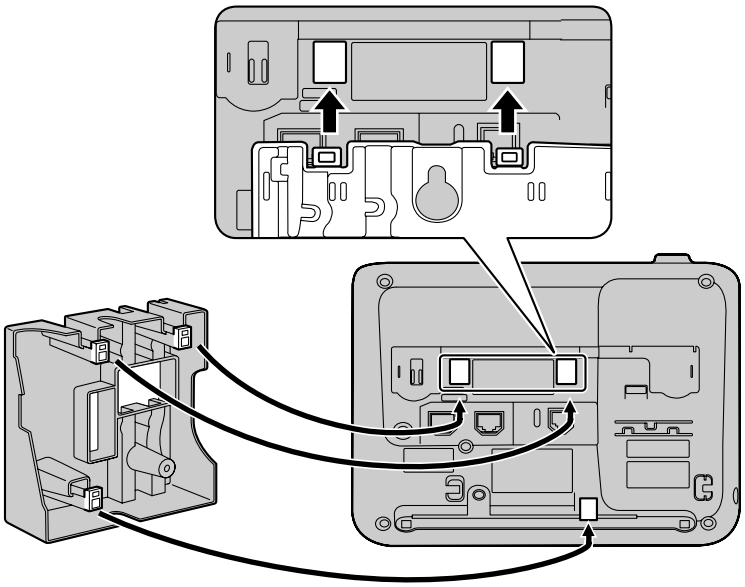
- 取り付けに使用するねじやワッシャーは、壁掛けキットに付属のものをお使いください。

1 壁掛けアダプターのツメ（5箇所または3箇所）を本機背面の差し込み口に差し込み、「カチッ」と音がするまで上にずらす

KX-UT136N

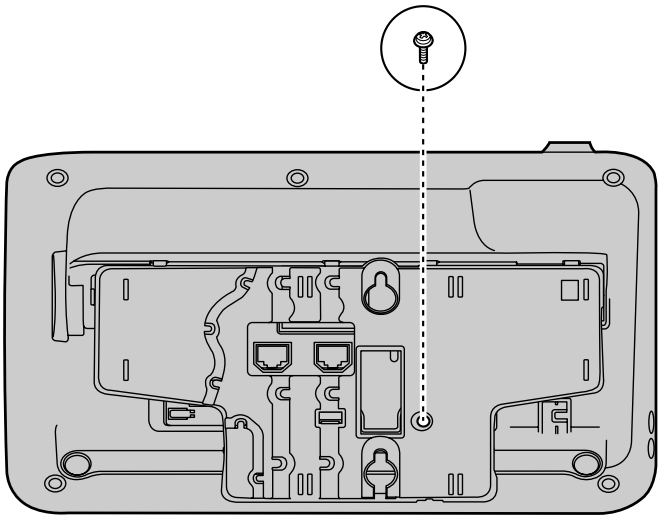


KX-UT123N

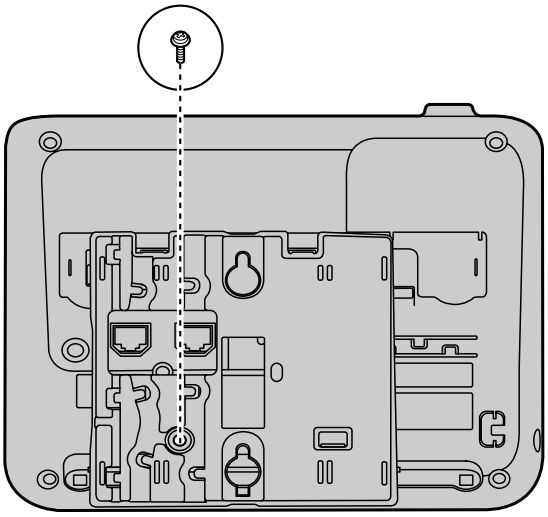


2 壁掛けアダプター用ねじで壁掛けアダプターを本機に固定する
（締め付けトルク：0.4 N・m［4.08 kgf・cm］～0.6 N・m［6.12 kgf・cm］）

KX-UT136N

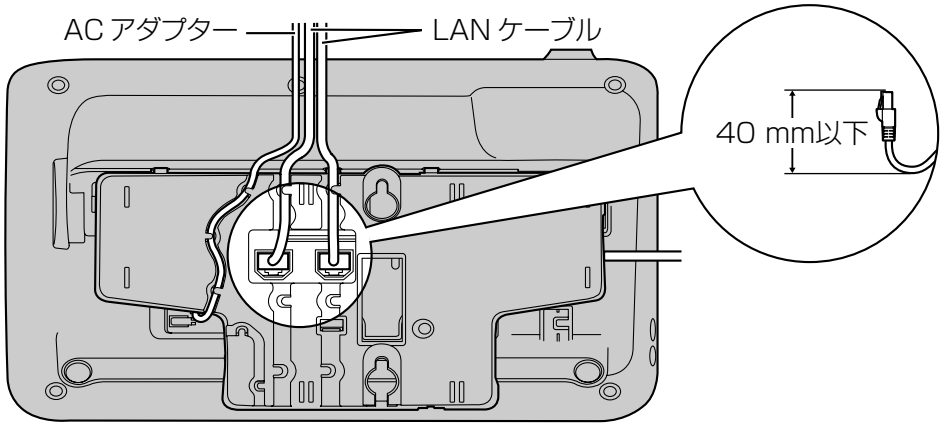


KX-UT123N

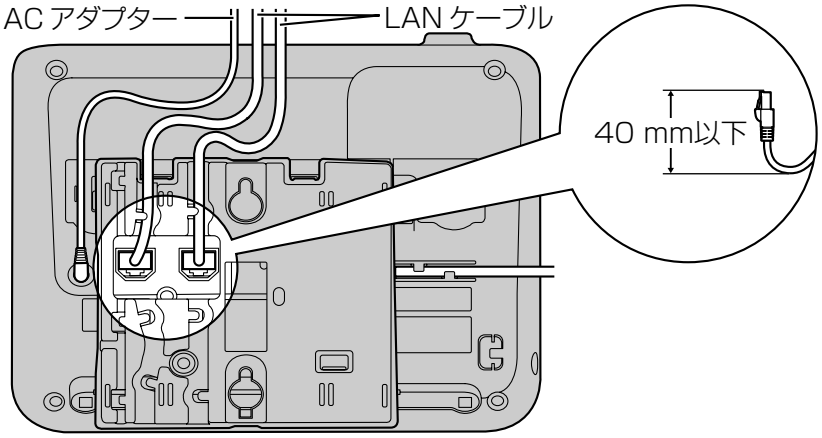


3 LANケーブルやACアダプターを本機に接続し、下図のように壁掛けアダプターのすきまを通して配線する

KX-UT136N



KX-UT123N

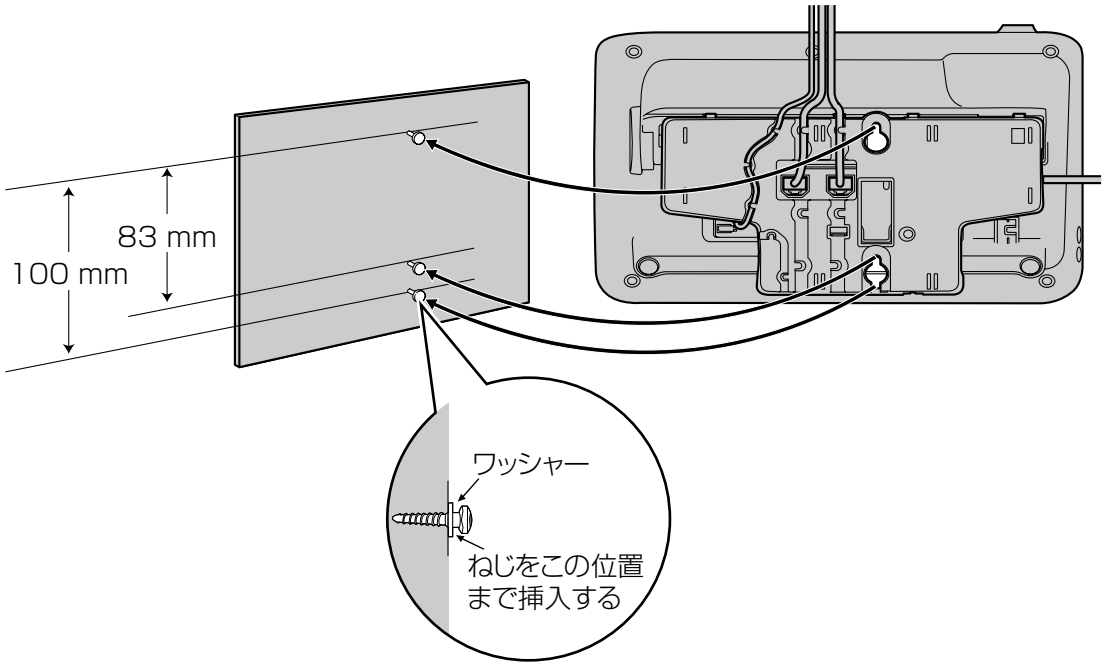


お知らせ

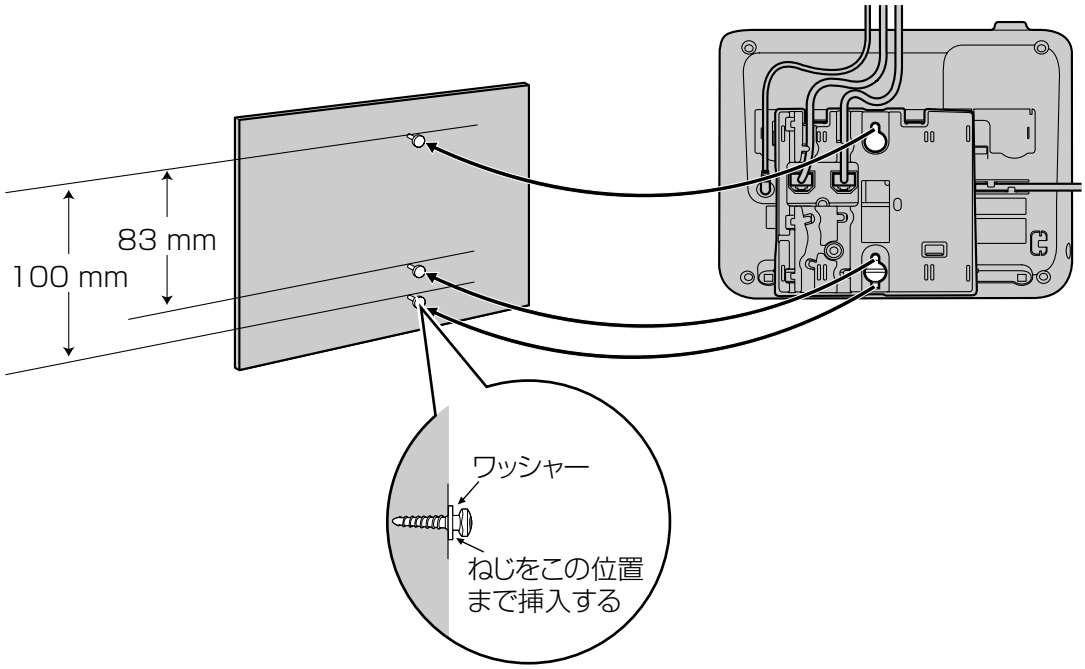
- LANケーブルやACアダプターは本機の下側へ配線することもできます。
- LANケーブルやACアダプターの接続については ☞ 56 ページ

4 壁取り付け用ねじとワッシャーを83 mmまたは100 mmの間隔をあけて壁に固定し、本機を壁に設置する

KX-UT136N



KX-UT123N



お知らせ

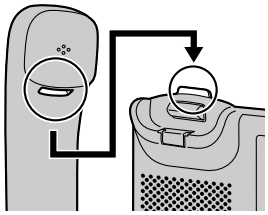
- 壁掛け用の寸法図は、本書の巻末にてご確認できます。
- 受話器を固定するには ☞ 64 ページ

受話器を固定する

以下の手順で受話器を固定することができます。

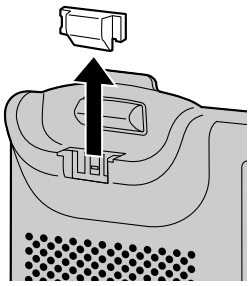
通話中に受話器を一時的に置くとき

1 受話器を本機上部のツメに引っ掛ける

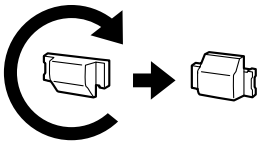


壁掛け設置のとき

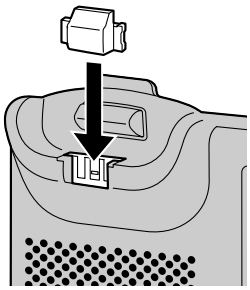
1 受話器フックを上に押して抜く



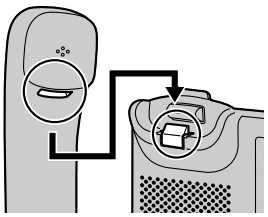
2 上下逆さまにする



3 「カチッ」と音がするまで、受話器フックを溝にはめて固定する



- 受話器が固定され、落下しにくくなります。



ヘッドセットを使用する

KX-UT136Nでヘッドセットを使用するには、ヘッドセットモードをオンにする必要があります。
ヘッドセットモードをオンにするには、ヘッドセットが設定されたフレキシブルボタンを押してください。
ヘッドセットモード中は、**【スピーカーホン】**を使用します。

ヘッドセットを使用して電話をかける

1. **【スピーカーホン】**を押す
2. 電話番号を入力する
3. **【決定】**を押す
   または、電話がかかるまで数秒待つ
4. 通話が終わったら、**【スピーカーホン】**を押す

ヘッドセットを使用して電話を受ける

1. **【スピーカーホン】**を押す
2. 通話が終わったら、**【スピーカーホン】**を押す

お知らせ

- ヘッドセットの接続については ☞ 56 ページ
- ヘッドセットが設定されたフレキシブルボタンのLEDは、以下の状態を示しています。
  消灯：ヘッドセットモードオフ
  赤（点灯）：ヘッドセットモードオン
- ヘッドセットをフレキシブルボタンに設定する方法については、システム管理者にお問い合わせください。

本機を設定する

この章では、本機を起動したときに設定できる項目を説明します。

スタートアップ設定を起動する

1. PoE給電が可能なLANケーブル、または別売のACアダプターを本機に接続する
2. 本機をネットワークに接続する
3. スタートアップ画面で、 設定 を押す
4. 設定したい項目を選択する

スタートアップメニューについて

スタートアップメニューでは以下の項目を設定できます。

1. **インフォメーション表示** (☞ 45 ページ)
   本機の各種情報を確認します。
2. **ネットワーク設定** (☞ 45 ページ)
   本機をネットワークに接続したり、IPアドレスを割り当てたりします。
3. **ネットワーク試験** (☞ 47 ページ)
   SIPサーバーやルーター、スイッチングハブなどのネットワーク機器の接続を確認します。
4. **ECOモード** (☞ 42 ページ)
   ECOモードを有効にします。
5. **リスタート** (☞ 47 ページ)
   再起動し、新規設定を有効にします。
6. **ファームウェアバージョン** (☞ 47 ページ)
   本機のファームウェアバージョンを確認します。

本機のメンテナンス

初期化する

本機をリセットして、設定内容を工場出荷値に戻します。詳細は、システム管理者にお問い合わせください。

再起動する

Webプログラミングや設定ファイルで設定を変更した場合、本機を再起動する必要があります。

1. 待機中に、 設定 を押す
2. **【▲】**または**【▼】**を押して**「リスタート」**を選択し、**【決定】**を押す
3. **【▲】**または**【▼】**を押して**「はい」**を選択し、**【決定】**を押す
   - キャンセルするには、**「いいえ」**を選択して下さい。

お手入れ

乾いた柔らかい布でふいて、定期的に清掃してください。

お手入れをするときは、以下の注意事項をお守りください。

液晶表示部を清掃するとき

- 液晶表示部は、以下の種類の道具のみを使用してふいてください。
  - 乾いた柔らかい布
  - 微量の中性洗剤、またはエチルアルコールを含んだ柔らかい布
- 液晶表示部は力を入れてふいたり、こすったりしないでください。

本体を清掃するとき

- 本機の損傷を防ぐため、お手入れの前にLANケーブルやその他すべてのケーブルを抜いてください。ACアダプターをご使用の場合は、お手入れの前にACアダプターを本機、またはコンセントから抜いてください。
- 汚れがひどい場合、柔らかい布に薄めた台所用洗剤（中性）をしみこませ、固く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。
- 本機の損失や変色を防ぐため、以下の道具や洗剤は使用しないでください。
  - 石油
  - みがき粉
  - アルコール
  - シンナー
  - ベンジン
  - ワックス
  - 熱湯
  - 粉せっけん
- 化学ぞうきんをご使用のときは、その注意書に従ってください。

必要なとき

仕様

項目	仕様	
	KX-UT123N	KX-UT136N
液晶表示部	3行表示（バックライトつき）	6行表示（バックライトつき）
フレキシブルボタン	—	24
VoIP接続方式	SIP	
VoIP音声コーデック	G.722、 G.711、 G.729a、 G.726	
イーサネット規格	10Base-T／100Base-TX	
IPアドレス取得モード	自動設定（DHCP）、 手動設定（Static）	
スピーカー	1	
マイク	1	
LANジャック（LAN）	2（RJ45）	2 （RJ45）
ヘッドセットジャック	1（ø 2.5 mm）	
EHSジャック	—	1（ø 3.5 mm、EHS専用）
寸法 （幅 × 奥行 × 高さ） （受話器、スタンドを含む）	205 mm × 160 mm × 170 mm	本体の角度を高い位置で設置している場合： 267 mm × 170 mm × 180 mm 本体の角度を低い位置で設置している場合： 267 mm × 187 mm × 155 mm
質量 （受話器、受話器コードを含む）	870 g	1120 g
PoE	IEEE802.3af準拠	
消費電力	PoE 待機時：約1.8 W（ECOモードオフ）、約1.3 W（ECOモードオン） 通話時：約2 W（ECOモードオフ）、約1.5 W（ECOモードオン） ACアダプター 待機時：約1.6 W（ECOモードオフ）、約1 W（ECOモードオン） 通話時：約2 W（ECOモードオフ）、約1.5 W（ECOモードオン）	
最大消費電力	6 W	
使用環境	0 ℃ ～ 40 ℃	

困ったとき

よくある症状と処置

基本動作について

こんなとき	原因と対応	参照ページ
液晶表示部に何も表示されない	• 電源は供給されていますか？ → 本機は停電時は動作しません。PoEを使用している場合、LANケーブルがPoE対応のスイッチングハブに接続されていないときは動作しません。ACアダプターを使用する場合は、ACアダプターをコンセントと本機に差し込む必要があります。	56 ページ
画面が見づらい	• 画面が暗くなっていませんか？ → 画面の明るさを調節してください。	43 ページ
正しく操作しても動かない／動作がおかしい	• ケーブルやコードは正しく接続されていますか？ → 本機と正しく接続されているか確認してください。	56 ページ
	• 接続設定は正しく設定されていますか？ → 設定に問題がないか、システム管理者に確認してください。 → それでも動かない場合や動作がおかしい場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。	39 ページ
	• エラーが発生していませんか？ → 本機を再起動してください。	67 ページ
が画面上に表示される	• SIPサーバーへの登録が外れています。 → システム管理者にご相談ください。	—
発信音が聞こえない	• LANケーブルが正しく接続されているか確認してください。	56 ページ
ディスプレイロックを解除できない	• 入力した内線暗証番号は正しいですか？ → システム管理者にご相談ください。	—
内線暗証番号を忘れてしまった	• システム管理者にご相談ください。	—
日時の表示がおかしい	• 本機の日時を設定しなおしてください。	44 ページ
メッセージ／リンガーLEDが点灯する	• 通話中、または離席中にボイスメールが届いています。 → ボイスメールを確認してください。	34 ページ

発着信について

こんなとき	原因と対応	参照ページ
発信できない	• SIPサーバーへの登録が外れている、または、サービスが無効になっています。 → インフォメーション表示画面（☞ 45 ページ）で、**「状態」**が**「未登録」**と表示されている場合は、システム管理者にご相談ください。	—
	• 入力した電話番号は正しいですか？ → 相手の電話番号を正しく入力してください。 → システム管理者にご相談ください。	26 ページ
	• 更新されたファームウェアをダウンロードしていませんか？ → ファームウェアのダウンロード中は発信できません。ダウンロードが終わってから、発信してください。	—
	• 電話帳をインポートまたはエクスポートしていませんか？ → 電話帳のインポートまたはエクスポート中は発信できません。操作が完了してから、発信してください。 → システム管理者にご相談ください。	—
着信音が鳴らない	• 着信音量の設定が**「オフ」**になっていませんか？ → 着信中に **【▲】** を押すか、着信音量の設定を変更してください。	42 ページ
通話中に通話が切れる	• SIPサーバーの設定または電話サービスにより、通話時間の制限が課せられていませんか？ → システム管理者にご相談ください。	—

音声について

こんなとき	原因と対応	参照ページ
相手に自分の声が聞こえない	• ミュート中になっていませんか？ → **【ミュート】**を押してミュート機能をオフにしてください。	32 ページ
	• スピーカーホンをお使いの場合、マイクが遮れていませんか？ → 通話中は手や物でマイクを遮らないでください。	—

こんなとき	原因と対応	参照ページ
音声が途切れる／エコー（スピーカーから自分の声が聞こえる現象）が発生する	• マイクから離れすぎていませんか？ → マイクに近づいて話してください。	—
	• 通話環境はスピーカーホンでの通話に適した状態になっていますか？ → ラジオ、テレビ、OA機器、電子レンジ、エアコンなどノイズを生じる機器から2 m以上離してお使いください。 → 窓のある部屋で本機を使用する場合、反響を防ぐためカーテンやブラインドを閉めてください。 → 本機を静かな環境でご使用ください。	—
	• 通話中に本機を移動していませんか？ → 通話中は本機を移動させないでください。	—
	• マイクが遮られていませんか？ → 通話中は手や物でマイクを遮らないでください。	—
	• 相手が半二重仕様のスピーカーホンを使用しています。 → 相手が半二重仕様のスピーカーホンを使用している場合は、通話中に音声が途切れる場合があります。本機を最大限に活用するには、相手は全二重のスピーカーホンを使用する必要があります。	—

電話帳について

こんなとき	原因と対応	参照ページ
連絡先を登録できない	• 電話帳に登録できる容量を超えています。 → 不要な連絡先を削除してください。電話帳に登録できる最大件数は５００件です。	37 ページ

こんなメッセージが表示されたら

操作中エラーメッセージが表示されることがあります。メッセージや原因と処置については、以下の表の通りです。

こんなとき	原因と対応	参照ページ
アドレスが重複しています	• ネットワークの設定が正しくありません。 → システム管理者にお問い合わせください。	—
アドレスが不正です		
アドレス未設定		
LANケーブルをご確認ください	• LANケーブルは正しく接続されていますか？ → 本機と正しく接続されているか確認してください。	56 ページ

こんなとき	原因と対応	参照ページ
メモリ　フル	• メモリーの容量がいっぱいで、電話帳の連絡先や着信拒否リストの電話番号を新規登録できません。 → 不要な連絡先や電話番号を消去してください。	38 ページ
未登録	• 電話帳や着信拒否のリストは未登録です。 → 電話帳や着信拒否リストに連絡先や電話番号を登録してください。	37 ページ 29 ページ
お待ちください	• 本機は起動中です。 → 電話帳に連絡先が多数登録されている場合は、起動に時間がかかることがあります。異常ではありません。	—

改訂履歴

ソフトウェアバージョン　01.025

変更項目

- 3者会議通話から2者通話に戻す（☞ 33 ページ）
- 着信音（☞ 42 ページ）

ソフトウェアバージョン　01.081

追加項目

- ボタン確認音（☞ 43 ページ）

変更項目

- 通話履歴から電話をかける（☞ 27 ページ）
- 着信を拒否する（☞ 28 ページ）
- 転送する（☞ 31 ページ）
- 不在着信を確認する（☞ 34 ページ）
- 着信履歴または不在着信履歴から連絡先を追加する（☞ 37 ページ）

オープンソースソフトウェア

本製品の一部はオープンソースソフトウェアを使用しています。関係する利用規約は、本ソフトウェアにも適用します。以下の著作権やライセンス情報に関するお問合せは当社ではお請けいたしかねます。

<<NetBSD kernel>>
This product uses a part of NetBSD kernel.
The use of a part of NetBSD kernel is based on the typical BSD style license below.

Copyright (c)
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:
1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

However, parts of the NetBSD Kernel are provided with the following copyright notices.

Copyright (c) 1980, 1983, 1988, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1980, 1986, 1989, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1980, 1986, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1980, 1986, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1985, 1986, 1988, 1993, 1994 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1988, 1990, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1988, 1990, 1993, 1994, 1995 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1988, 1990, 1993, 1995 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1988, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1988, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1988, 1993, 1995 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1989, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1989, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1990, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1990, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1990, 1993, 1994 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1991, 1993, 1994 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1991, 1993, 1995 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1993, 1994 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1986, 1993, 1994, 1995 The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1982, 1986, 1993, 1995 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1982, 1988, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1983, 1990, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1983, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1985, 1986, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1985, 1986, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1986, 1989, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1986, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1987, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1987, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1987, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1988 Regents of the University of California. All rights reserved
Copyright (c) 1988 Stephen Deering.
Copyright (c) 1988 University of Utah.
Copyright (c) 1988, 1989, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1988, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1988, 1992, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1988, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1989 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1989, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1989, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1989, 1993, 1994 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1990, 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1990, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1991, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1991, 1993, 1994 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1992 Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1992, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1993 Adam Glass
Copyright (C) 1993 by Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1994 Gordon W. Ross
Copyright (c) 1994 Winning Strategies, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1995 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (C) 1995, 1996, 1997, and 1998 WIDE Project. All rights reserved.
Copyright (c) 1996 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1996 John S. Dyson All rights reserved.
Copyright (c) 1996 Matt Thomas. All rights reserved.
Copyright (c) 1996 Matthew R. Green. All rights reserved.
Copyright (c) 1996 Paul Kranenburg
Copyright (c) 1996, 1997, 1999, 2001 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1996, 2000 Christopher G. Demetriou. All rights reserved.
Copyright (c) 1996,1999 by Internet Software Consortium.
Copyright (c) 1996-1999 by Internet Software Consortium.
Copyright (c) 1997 Jonathan Stone and Jason R. Thorpe. All rights reserved.
Copyright (c) 1997 Christos Zoulas. All rights reserved.
Copyright (c) 1997 Manuel Bouyer. All rights reserved.
Copyright (c) 1997, 1998 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1997, 1998, 1999, 2000 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1997, 1998, 1999, 2001 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1997, 1998, 1999, 2002 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1997, 1998, 2000, 2001 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1997, 1998, 2001 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1997,98 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (C) 1997-2000 Sony Computer Science Laboratories Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1997-2002 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1998 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1998 Todd C. Miller <Todd.Miller@courtesan.com> All rights reserved.
Copyright (c) 1998, 1999 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1998, 1999, 2000 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1998, 1999, 2000, 2001 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1998, 2000 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1998, 2000, 2001 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1999 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (C) 1999 WIDE Project. All rights reserved.

Copyright (c) 1999, 2000 Jason L. Wright (jason@thought.net) All rights reserved.
Copyright (c) 1999, 2000 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1999, 2000, 2001 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1999, 2001 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 2000 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 2000, 2001 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 2000, 2001, 2002 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 2001 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 2002 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright 1998 Massachusetts Institute of Technology. All rights reserved.
Copyright 2001 Wasabi Systems, Inc. All rights reserved.
Portions Copyright (c) 1993 by Digital Equipment Corporation.
Portions Copyright (c) 1995 by International Business Machines, Inc.
Copyright (c) 1983, 1989 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1996 by Internet Software Consortium. All rights reserved.
Copyright (c) 1980, 1986, 1989 Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1988 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1992, 1993 The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1994 Christopher G. Demetriou. All rights reserved.
Copyright (c) 1997 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1999 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 2001 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Copyright (c) 1996 Gardner Buchanan <gbuchanan@shl.com> All rights reserved.

Parts of the NetBSD Kernel are provided with the licenses that are slightly different from the
above Berkeley-formed license. Please refer the source code of the NetBSD Kernel about the details.
The source code of the NetBSD Kernel is provided by the NetBSD CVS Repositories
(http://cvsweb.netbsd.org/bsdweb.cgi/), and this product includes parts of the source code in the
following directories.
http://cvsweb.netbsd.org/bsdweb.cgi/src/sys/kern/
http://cvsweb.netbsd.org/bsdweb.cgi/src/sys/net/
http://cvsweb.netbsd.org/bsdweb.cgi/src/sys/netinet/

<<MD5>>
This software uses the Source Code of RSA Data Security, Inc. described in the
RFC1321 (MD5 Message-Digest Algorithm).

Copyright (C) 1991-2, RSA Data Security, Inc. Created 1991. All
rights reserved.

License to copy and use this software is granted provided that it
is identified as the "RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest
Algorithm" in all material mentioning or referencing this software
or this function.

License is also granted to make and use derivative works provided
that such works are identified as "derived from the RSA Data
Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm" in all material
mentioning or referencing the derived work.

RSA Data Security, Inc. makes no representations concerning either
the merchantability of this software or the suitability of this
software for any particular purpose. It is provided "as is"
without express or implied warranty of any kind.

These notices must be retained in any copies of any part of this
documentation and/or software.

<<MT19937>>
The MT19937 software that Takuji Nishimura and Makoto Matsumoto developed
is contained, and this product shall be used subject to the following
license conditions.

Copyright (C) 1997 - 2002, Makoto Matsumoto and Takuji Nishimura,
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without
modification, are permitted provided that the following conditions
are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright
   notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
   notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
   documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. The names of its contributors may not be used to endorse or promote
   products derived from this software without specific prior written
   permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS
"AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT
LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR
A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR
CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL,
EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO,
PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR
PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF
LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING
NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS
SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

<<thttpd>>
The thttpd software that ACME Labs developed is contained, and this product
shall be used subject to the following license conditions.

Copyright 1995,1998,1999,2000 by Jef Poskanzer <jef@acme.com>.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without
modification, are permitted provided that the following conditions
are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright
   notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
   notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
   documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND
ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS
OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT
LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY
OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF
SUCH DAMAGE.

保証とアフターサービス よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へご相談ください。

▼お買い上げの際に記入されると便利です

お買い上げ先	
電　話	（　　）　　－
お買い上げ日	**年　月　日**

修理を依頼されるときは

「困ったとき (69 ページ)」でご確認のあと、直らないときは、まずACアダプターまたはLANケーブルを抜いて、お買い上げ日と下の内容をご連絡ください。

●製品名	SIP電話機
●品　番	KX-UT123N／KX-UT136N
●故障の状況	できるだけ具体的に

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料 **診断・修理・調整・点検などの費用**

部品代 **部品および補助材料代**

出張料 **技術者を派遣する費用**

※補修用性能部品の保有期間 7年

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後 7 年保有しています。

アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

・正常な使用状態で本機に故障が生じた場合、当社は本機の保証書に定められた条件に従って修理をさせていただきます。ただし、落雷や停電などの外部要因、または本機の故障、誤動作等で、本機が使えなかったことによる付随的被害の補償については、当社はその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
・説明書に記載されている内容は、製品のバージョンアップなどに伴い、将来予告無しに変更することがあります。

索引

英数字

3者会議通話　33
ACD（フレキシブルボタン）　36
ACアダプター　15
　接続　56
BLF（フレキシブルボタン）　36
DCジャック　20
DN（フレキシブルボタン）　35
EHSジャック　19
EHSヘッドセット　57
LAN接続
　接続　56
LANポート　20
PCポート　20
Webプログラミング　52

あ行

安全上のご注意　7
液晶表示部　16
　LCDコントラスト　43
エラーメッセージ　71
お手入れ　67
オフフックモニター　24
音量　25

か行

会議ボタン　17
各部のなまえとはたらき　16
　前面　16
　背面　20
　左側面　19
壁掛けキット　15
壁に設置する　60
決定ボタン　17
検索（電話帳）　26
困ったとき　69

さ行

再起動する　67
再ダイヤルボタン　17
再ダイヤル　27
自動応答　28
受話器　14
　置く　64
　音量　25
　取り付け　59
受話器コード　14
受話器フック　17
受話器用モジュラージャック　20
仕様　68
初期設定　66
スクロールインジケーター　21
スタートアップメニュー　66
スタンド　14
　調節する　54
　取り付ける　53
　取り外す　54
ステータスアイコン　21
スピーカー
　音量　25
スピーカーホンボタン　17
接続　56
設定　39
　DNS　45
　DNS1　45, 46
　DNS2　46
　ECOモード　42
　IPアドレス　46
　IP電話機　46
　LAN ポート　47
　LCDコントラスト　43
　PC側　46
　PCポート　47
　VLAN ID　46
　VLAN　46
　インフォメーション表示　45
　サブネットマスク　46
　着信音　42
　着信音量　42
　着信拒否　48
　着信音色　42
　通信速度／通信方式　46
　ディスプレイロック　43
　デフォルトゲートウェイ　46
　時計設定　44
　内蔵Web　47
　ネットワーク　45
　ネットワーク試験　47
　バックライト　43
　ファームウェアバージョン　47
　不応答転送　44
　不在設定　44
　不在転送　44

プライオリティ　46
方法　39
ボタン確認音　43
鳴動回数　44
リスタート　47
話中転送　44
ソフトボタン　17, 22
アイコン　21, 22

た行

着信音
音量調節　25
着信を拒否する　28
通話切り替え　31
電子フックスイッチ→EHS　57
転送　31
転送する　31
転送ボタン　17
電話　26
再ダイヤル　27
着信拒否　28
通話履歴からかける　27
電話帳からかける　26
電話を受ける　28
不在着信　34
保留する　30
電話帳
インポート　38
エクスポート　38
検索する　26, 38
削除する　38
追加する　37
編集する　37
電話をかける　26
電話をする　26

な行

内線番号　24
ナビゲーションキー　17

は行

ハンズフリー　24
不在設定　35
不在着信　34
不在転送　35
不在ボタン　17
付属品／添付品　14
フックボタン　17
フレキシブルボタン　17, 35
ヘッドセット　57
音量　25
ヘッドセットモード　66
ヘッドセット（フレキシブルボタン）　35
ボイスメール　34
保証とアフターサービス　79
保留する　30
保留ボタン　17

ま行

マイク　18
ミュート／自動応答 ボタン　17
メッセージ／リンガーLED　17
メッセージボタン　17
メンテナンス　67
文字入力　49
戻るボタン　17

や行

ユーザー設定　39

ら行

リンガー／メッセージLED　17

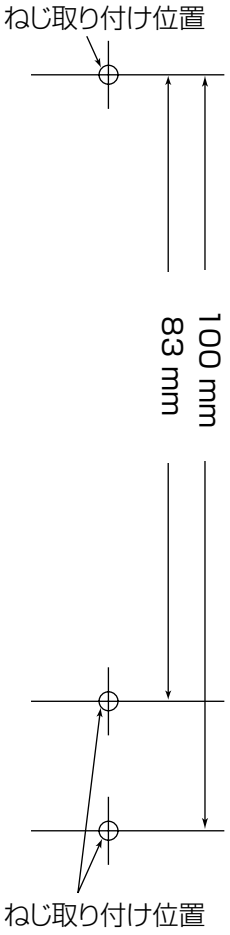
わ行

話中着信　30
ワンタッチ（フレキシブルボタン）　27, 35
ワンタッチ転送　31

壁掛け寸法図

1. ねじを壁に取り付ける
2. 本機をねじの頭に引っ掛けて設置する

お願い
本ページを印刷するときは、用紙サイズを A4 に設定してください。
印刷した用紙の寸法線の長さと表示している寸法値が異なる場合は、表示している寸法値に合わせて設置してください。



■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック　システムお客様ご相談センター

電 話 フリーダイヤル 0120-878-410（パナハ ヨイワ）　受付：9時～17時30分　（土・日・祝祭日は受付のみ）

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは　https://sec.panasonic.biz/solution/info/

ご使用の回線（IP 電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。
本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

■ 本製品は、外国為替および外国貿易法に定める規制対象貨物（または技術）に該当します。
本製品を日本国外へ持ち出す場合は、同法に基づく輸出許可など必要な手続きをお取りください。

■ This product is a Restricted Product (or contains a Restricted Technology) subject to the Japanese Foreign Exchange and Foreign Trade Law. In case that it is exported or brought out from Japan, you are required to take the necessary procedures, such as obtaining an export license from the Japanese government, in accordance with the Law.

パナソニック システムネットワークス株式会社

〒153-8687　東京都目黒区下目黒二丁目3番8号

© Panasonic System Networks Co., Ltd. 2011

PNQX3576XA DD0711MK2012